



●今月の巻頭文

八期会の皆様へ。

はじめに 【自己紹介を兼ねて、自分なりの歴史観】



自分は 22 年前に、それまでの関東在住生活【学生時代から約40数年ほど】を終えて、ふるさとの日置市吹上町永吉に帰郷してきた。

その時、知人の郷土史家である大岳吉之助氏から「故郷の永吉、伊作は歴史豊かな土地である、今後は、郷土史を勉強しろ！」と鹿児島国際大学の三木靖先生を紹介されて、当時、同大学で開催されていた生涯学習講座の共通講座で、一般の学生に交じて、2年間、三木先生の歴史講義を受講した。さらに吹上郷土史研究会にも参加して、先輩の諸氏から地元の歴史を学ぶこともできた。

特に三木先生には、その後、地元に残る「永吉南郷城址」(島津家以前に当地を330年間に亘り統治していた桑波田一族の建立した、中世の山城址)を何度も探査に来ていただき、壮大な「空堀」などを指摘していただいたり、現在も『天昌寺まつり』などには、講演などもお願いしている。

ホント、自分にとっては、「良き師」に巡り合えたと思っている。

さらに、薩摩藩の外城制度による「郷中教育」の一環として、当永吉地区に昔から存在した「精研舎」が昭和20年代の後半から「永吉南郷会」と名称を変えて、永吉地区の先遣の顕彰と青少年の健全教育を目指す歴史ボランティア団体【史跡の維持・保全などを主体事業】に加入して、その後、役員・会長職なども10数年努めてきた。

今は、身体も不調となって、会長職を辞任して、史跡の「語り部」として、最近、特に「戦国武将の人気者」として、永吉島津家などの島津家久や豊久らの墓地【天昌寺跡、梅天寺跡など】を訪れる歴史愛好家にたいして、地元の史跡の案内や説明などに務めている。

ここ10年来は、東京の学生時代、明治時代に島津宗本家が建立した学生寮【同学舎】に4年間お世話になったことで、その卒業生で組織する「舎友会」の鹿児島大会をやれと本部の指示で、過去3回ほど鹿児島大会【全国では東京で毎年定時に開催】したが、その時、同学舎の会長職は歴代の島津宗本家のご当主様が就任されていることで、第32代のご当主であられる島津修久【のぶひさ】様に、その大会のご臨席とご挨拶をお願いに参上した時から島津修久様からの知古を得て、それ以来、仙巖園にある鶴嶺神社(島津家歴代の当主・藩主などを祀る)の神事に毎回招待されるほどの温かい扱いを受けている。

その後、永年が経過しましたが、なにせ、今までの、生活に追われての「サラリーマン生活」であったので、歴史の「お勉強」も聴き耳の浅い経験しかない、「ずぶの素人」であるが、ここで、自分なり夫の「歴史観」を述べてみたい。

歴史を聞く、知る楽しみは、今までの「世の中のひとつの事案」を知ること、まさに「オドロキ」を感じる次第である。「文学・音楽などの芸術分野でも「オドロキ」を感じないシロモノは、面白くない」と言われている。

歴史を学んでいても、ただ、事案や年表だけを覚えることだけでは、何の刺激も感動もない。

その事案に対して、なぜそのような事が起きたのか、その原因は？、その結果は？、その影響は？などと、その事案について、自分なりに深く追求するところに、歴史を学ぶありがたさがあると思う。

自分は、老いてからの「お勉強」であり、今更、梵字や古文書そのモノを読み取れることもできずに、歴史学者先生や小説家の方々の作品や現代語訳などを読む「もどかしさ」があるが、歴史の深層をえぐることについては、よく考えてゆく方であろう。

長い期間の中で、所謂「定説」と言われている事案がある。誰が視ても、古文書、証拠品など、ゆるぎない「事案」は存在する。これは衆目が認める「歴史」であろう。

ところが、古い時代の「事案」などは、古文書もいろいろあり、また証拠品なども多数ありすぎる「事案」もあろう。

今までの拙い経験では、その時、ある識者はご自分が詳細に探査した、古文書を見つけた、あるいはご自分でその所を見聞したことなどで、ご自分が認識された「説」に拘泥して、ほかの方の意見などを頭から「抹殺」される歴史家や小説家が多い事に気が付いた。

つまり、ご自分の「説」が正しいと向きになって主張される歴史家が多いという事である。

これでは、心底、「歴史の真実に迫る」ことができているかと問えば、なかなか、そうはすぐには理解できない。

その時、自分はどのような見方がよいか？を考えたい。

これ等の特に「定説」と確定していない事案に対しての「対処の仕方」は、柔軟な発想と対処の仕方があると思える。

自分は、その事案に対して、いろんな「説」があっても、その根拠としての古文書、史跡、墓地、証拠品などがあつたにしても、それがどのような時代で、誰が、どのような立場で書かれたか？、どのような事で残っているのか？その後の影響は？などと、多くの説問を問いながらの、「追求」がなされるべきである。

その時の姿勢として、歴史を知る者が、自分が、その時、当事者であつたら、あるいは判断すべき立場であつたら、どのような処理や活論を見出すか？と、今の自分に置き換えて、「自分ならこのように判断し、対処する！」という意識で、その事案を視るという姿勢がよりベターであると確信する。

つまり、自分が、その事案に対して、「主体的に対応する事」が最も歴史を知る楽しみに繋がると思う。

この過去の事案を自分で今の「主体的立場」に変えて判断し、それを皆さんが言われるいろんな「説」と比較しながら、紐解いてゆくことこそが、歴史に真実に迫るのではないだろうか？

その事の繰り返し、自分なりに「歴史を楽しむ」ことに通じるだろう。

これらの視点に立って、今回の「島津の退け口」や「父島津家久の急死」の謎、などにも触れてゆきたい。

したがって、今回の講和の中でも、アチコチで、自分の「独断と偏見」の見解が示されていようが、そこは老生の「島津キチガイ」のなせる事で、是非、皆様の忌憚のない叱責とご感想をよせていただきたいと願っている。

○隈元コメント



5月号の圧巻は大石くんも書いているように、永留先生退職の記「教職(56年)を終えて」でしょう。

永留くんとは、中学校時代のことは清水中に3年生になる時に転校したのでよく覚えていなのですが、高校時代から大学卒業までの7年間は親密な付き合いがありました。

彼は大学に入るとすぐに男声合唱団・フロイデコールに入りました。私は歌うことは好きでしたが、高校時代も合唱などしたこともなかったので、入部をためらっていました。

1年の秋になって、合唱コンクール九州大会が終わったところで、彼の紹介によって下手の横好きで入部しました。

彼はバリトンパートでしたが、団の中でも頭角を表すようになり、やがてバリトンのパートリーダーになりました。

試験が近づくと清水町の我が家に弁当持参で来て、勉強をしたのか、歌を歌ったのかよく覚えていませんが、何か？をしていたのは事実です。

卒業後は音楽を学び直して教師となり、ついには彼も書いているように「音楽専科」の先生になっていました。

私が転職して北九州から長崎に転勤になったとき、九州合唱コンクールが長崎で開催されたことがあり、当時鹿児島市職員合唱団？に属していた彼が出場のため長崎にきました。

私が35歳から38歳まで長崎にいましたからその年代のときです。

彼と一緒に食事に行って、スナックなどまわった後、「どけ泊まっちゃっと」と聞いたところ「国家公務員宿舎よ」という返事。よく聞くと附属小学校が勤務先でした。

たしか東山手にあった宿舎まで送っていった記憶があります。彼が書いている一回目の付属小学校勤務だったのだらうと思います。市町村立学校から附属小学校に行くと国家公務員になるわけです。

その後、鹿児島に帰ってきて彼とも連絡を取り合いました。

私も鹿児島に帰ってきてから OB 合唱団・楠声会で歌っていましたが、ある時その演奏会を聴いた中村孝重さんが「花の木農場」で演奏をしてくれないかと言う話が永留くんを通じて私にきました。

彼と一緒に「花の木農場」を訪ねて、中村さんの意向を聞き、その後、楠声会の会長など幹部を伴って再び中村さんを訪ねて公演が実現しました。

当日は小柳ルミ子が来演して歌いましたが、私たちも自分たちの演奏の他に小柳ルミ子と同じステージに上って「瀬戸の花嫁」を声高らかに合唱しました。

50人くらいのおじさん団員も大喜びでした。これも永留くんのおかげです。

永留くんが大石くんと中国を訪ねて長沙市の学院で授業をしています。以前にもこの映像はみたことがありますが、今回改めて聞くと凄いですね。

力強い腹から出る声。子どもたちの指導のうまさ。中国の先生方もさぞかしあの指導ぶりに驚かれたことでしょう。

「もみじ」の輪唱、秋川雅史の「千の風になって」の合唱など懐かしく聞きました。

また、始良みらいホールでの独唱会も素晴らしいですね。あのときは大石くんや、今は亡き平澤さんたちと一緒に聞きにいきました。

動画には出てきませんでしたが、石川啄木の「砂山の砂に腹這い 初恋のいたみを 遠くおもひ出づる日」の歌唱は忘れることができません。

また 機会をつくって聞きたいものです。

最後になりましたが、自営以外では八期生最長の56年という勤務お疲れ様でした。

今後も生きがいの子供と共にある音楽活動を楽しみながら、あまり無理せず自分の時間もつくってください。

近々、ゆっくり会えるといいですね。

隈元達雄

○5月30日 永留アンサー



今日も、午後から付属小に行って来ました。明日の部活指導のために今夜も資料作りの準備をしているところです。

隈元君が寄せて下さった私の巻頭言へのコメント 読ませて頂きました。高校、大学時代のこと、若い時分の教職時代に長崎で隈元君と奥様にお世話になったことなど懐かしく思い出すことでした。今夜は遅い時間になっているので、明日、隈元くんにはコメントを送ります。いろいろお気遣い、ご配慮頂きありがとうございました。

○隈元くんへ

小生の八期通信「巻頭言」へのコメント、早速頂きありがとうございました。貴兄との思い出は、清水中へ転校して



来て間もない頃、貴兄の家に何度かお邪魔し、色々な楽しい話をしたことを覚えています。

高校時代は、私が何か部活動を始めようと迷っていた時「生物部」へ誘ってくれて入部したことも思い出に残っています。当時の「生物部」は部員数も多く、活動も非常に盛んで、霧島、えびの高原等へキャンプを兼ねた植物採集し、楽しい体験が出来たことも貴兄のお陰と感謝しています。

大学時代は貴兄のコメントにも書いて頂いたように「男声合唱団」で共に歌ったことが、私の教職に於いて、楽しみながら、追い求めることになった「音楽教育研究」への大きな契機になったと思っています。

また、大学卒業後も職種こそ違え中学・高校・大学で共に楽しく過ごした絆を忘れずに、その後も連絡を取り合いお付き合いできたことをうれしく思います。九州合唱コンクール「長崎大会」の折、長崎の貴兄のお宅にお邪魔し、奥様も一緒に温かく歓待して頂いたことは今でも忘れられません。

「八期通信」には貴兄の「郷土の歴史研究探訪」に関する諸文には、その内容の深さと飽くなき探究心に驚きと共に敬意を持って拝読させて頂いていました。これまで。コメントもせず失礼をしていましたが、これから、私も勉強して、少しでも一緒にお共させて頂く機会があれば良いなあ・・と思っています。

これからもよろしく願います。

永留弘之

○5月31日



八期オンライン通信 盛りだくさん

途中まで読んだところで、用事でパソコンの前を離れ、戻って読み返しています。

永留さん

終りのない素晴らしいお仕事、まさに天職。

永留さんのクワイ河マーチ（カーネルポギー）の口笛、玉龍時代に聞いて、その素晴らしさに驚きました。確か右手で調子を取りながら吹いていませんでしたか？

[クワイ河マーチ（ミッチ・ミラー楽団） - YouTube](#)

テレビで映画「戦場にかける橋」を観ていたら

早川雪州がアレック・ギネスにとっておきと思われるウイスキーを飲もうと勧め断れるシーンがありました。

そのウイスキーが、ジョニーウォーカーの赤ラベルであるのを見て、昔は輸入物のウイスキーがどれほど高価であったかは思い出しました。今ではジョニ赤は1000円ちょっとで、よく飲んでいます。

話が脇に逸れました。

永留さんが、いつだか八期通信の中で書いていた、口をいっぱい開いてでなくても小さな声でもよいというようなことを書いていたと思います。その言葉が非常に印象的でした。

私は歌は不得手でしたが、先生たちはなぜかもっと大きな声で、お腹から声を出せと言いました。

どうして、そう言われるのか、理解できないというよりも、不思議でした。

かなり以前、どこだかの音楽の先生が「音痴は治せる」とテレビで言っていました。

本当にそうかもしれないと思いますが、残念ながらそのような先生には遭遇しませんでした。

目出度いとき、楽しいとき、悲しいとき、音楽が奏されます。士気を鼓舞するときには音楽があります。

大相撲の千秋楽に、〇〇音楽隊の前奏に続いて国歌斉唱を願います。観客が国家を歌うのはおそらく日本だけ、大相撲だけでしょう。素晴らしいことです。

この方式は順次世界に広がっていくことでしょう。

所さんの番組で、部活のブラスバンド部の活動が時々放映されます。鹿児島はレベルが高いようですね。

龍門石窟の盧舎那仏、則天武后に似ているとか....

大石さん、中国の留学生に尋ねて戴きたい。

=====西山 和宏

○隈元くんへ



永留くんも@gmail.comを使って『オンラインで通信』に投稿してくれるといいけどね。

善之助さんのように。

音楽部門がないのでいいかも。

それと永留くんは2つのアドレスを持っていますが@y bbより@gmail.comに送る方がいいです。

又、本田さんは tnhonda8@gmail.com がパソコン用ですからこちらに…。大石

森くん宅の「歴史的会談」をブログにアップしました。

○皆さん

関西から木場さんを迎えての「歴史的会談」をブログに書いてみました。



森くん宅のきれいな花々が文字通り「華」を添えてくれました。

森くんにはいつも会場を提供いただき感謝の他ありません。

奥様にもよろしくお伝えください。

隈元達雄

<https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/>

5

○隈元さん はじめ 参加者各位

隈元さん ブログ 読みました。森さん宅を背景に よく書いていただいております。すごいですね！



森さんの奥様には 厚く御礼申し上げます。

近い将来 また、チャンスあれば このような会合 持ちたいです。

有難うございました。

木場 祥雄

○まさに、朋有遠方より来る 談論風発 大いに歴史を語る



また 楽しからずや ですね

林間に酒を暖めて紅葉を焚き、さらに尽くせ、一杯の酒

というところでしょうか

いつの日にか、我もその輪に加わらん…

=====

西山 和宏

=====

○西山さんが、いつかその輪に加わる日を皆が待っていますよ。



隈元達雄

○ありがとうございます

その日まで皆様もお元気で過ごしてください。 西山

○6月1日

『大石ケイジの中国スケッチ⑧蘭州』YouTube 動画アップしました。



動画リンク

https://youtu.be/xv4t7Ff_mBU

『大石ケイジの中国スケッチ⑧蘭州』黄河を羊の筏でゆらりゆらり

◎6月10日

久しぶりでこのページに書き込みます。

大石編集長 6月17日

市の日中友好協会の定時総会がコロナが落ち着いた為急遽開催が決まり準備でバタバタしています。『迷宮の月』も砂金の



袋👛を終えて一時中止しています。

西山くんがぼくに送ってくれた意味が分かりました。ぼくの「中国スケッチ」のコースと主人公・遣唐使粟田真人のそれとがとても似ているので知らせてくれたのではと。

この時代の東アジアをトータルで学んでいくと今の時代までひっくり返って学ばざるを得なくなってきました。

せめて生きている間東シナ海・長江・黄河近辺の歴史くらいは自分の中で紙に書けるようになりたいと思います。

宗教で言えば大乘仏教圏(道教も若干含めて)

そうそう、迷宮の月にも出てくる玄奘和尚の経典を纏めた寺大雁塔は今回の「ケイジ中国スケッチ⑩」のメインポイントです。

余り知られていないけど近くに小雁塔もあり行きました。二度上まで上がりました。

本当に西に向かって果てしなく一本の道が通っています。

又小説では大雁塔を洛陽近くに設定していますが確か長安と洛陽は当時もかなりの距離だったと思います。

ともかく後半どうなるか楽しみです。

読み終わったら木場くんに送ってあげても…ただ彼の関心の範囲に入るかどうかです。隈元くんは奥様が中国古代史(三国志も3人の作者読破)大好き♡みたいです。

今夜はこの辺で…

6月2日大石から西山氏へ

西山さん！本ありがとう！！



ずっしりとした単行本ですね。

小さなレシートを見るまでは「また高価な本を…」と思いましたが、見て安心しました。

新品だし買い得ですね！ 以前(昨年?)だったかな？

…「今、おもしろい新聞連載小説(安部龍太郎)読んでいます」と貴方からのメールを見た覚えがあります、この本でしたか？

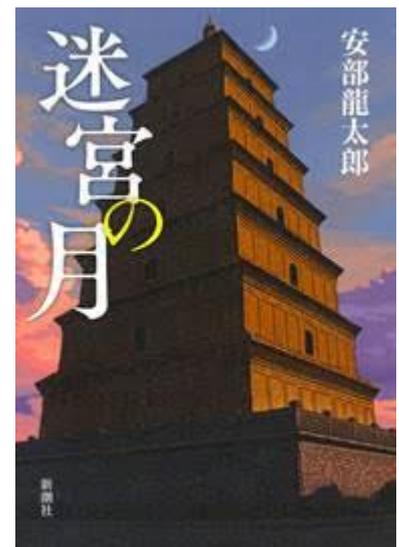
古代史の中で一番興味がある推古天皇—聖徳太子—遣隋使から遣唐使。。。その頃の物語ですね。

史実に沿ったフィクション(小説)ですかね？実在人物も多く出ますか？たのしみです。

過日、森宅で集った際、木場くんが言ってました「私は日本史はもう(いまさら)広く学びたくない」…と。

本田さんと隈元くんが、戦国島津(1600年)前後50年くらいの話に熱が入り、マニアックな話題(例えば島津の退き口のコースその際誰が付いていたか?)に木場くんも辟易したのかも知れません。(多分興味のない話だったのかも)「私は、日本史は、もう、ある時代にだけ決めて勉強することにしてるんや！その時代は飛鳥・奈良に範囲をきめとるんや！

いまさら、あっちゃこっちゃ読み漁っても訳が分からんようになってしまう。この年になると頭がついていかへん！……その時代こそ、この小説『迷宮の月』の世界のような気がします。も少し前の遣隋使あたりからかもしれませんが。



木場くんがルネサンスの雑誌を数冊に、自分でコピーした資料3部ほど(古事記から最近の世界情勢まで)を置いていきました。

最近始めた自己記録『中国スケッチ』…ボケないうちに・と動画作成に、古いダイアリーを書き直したり…趣味??の世界(…と妻や娘がいう)もそれはそれで、時間が過ぎていきます。

留学生たちが活動を開始しないうちに我が事を進めていくことにします。

雑文が長くなりましたが、いつか遣唐使の「裏の顔」栗田真人のものがたりを語れば、と思います。

◎楽しいメールありがとうございます。

あなたなら物語の中を少し遅れて一緒に旅をしている感じでしょうか？



歴史物としてでなくても面白いと思います

でも楽しみながら、そういうこともあったであろうと思われることがあります。

後半では、絶対になかったこと

いや、あったかもしれないことが起こります。

「迷宮の月」の後に読むことを少しお薦めは「平城京」
絶体にお薦めは、やがて上梓されるであろう「ふりさけ見れば」
いずれも阿部龍太郎著。

是非、残りを踏破してください！

=====

西山 和宏

=====

◎6月3日

現在、新聞連載中の「ふりさけ見れば」手許にあるだけ添付します



これは阿部龍太郎文学の集大成ではないかと思います

歴史物にとどまらず人間のはかなさ哀しさを見事に書いています

現在、日本経済新聞の夕刊に宮城谷昌光が「諸葛亮」を連載しています

さて、お届けした本の前に阿部龍太郎「平城京」を読みました

「迷宮の月」は読み出したら止まりませんでした。

その後「姫神」を間もなく読了です。これには栗田真人が登場します。

「姫神」の後で、読みかけの井上靖「額田女王」に戻ります。

時代的には、「姫神」「迷宮の月」「平城京」です。

「ふりさけ見れば」は、「迷宮の月」または「平城京」の後の時代です。

「則天武后」外山軍治は以前読みましたが、記憶に残っているのは則天文字だけ。

私は年代も人名もあまり気にせず ストーリーだけを楽しんでいます。

しかし、不本意ながらと言って何ですが、古代史の勉強になります

遣隋使、遣唐使を派遣した目的がよく分かりました

今までは遣隋使や遣唐使が隋や唐に行ったというだけで
本当の目的を知らませんでした。

どの本にも書かれていませんが、古代のあの時代
規模は小さいながらも日本列島は、時代がずっと下ったアメリカ大陸と同じであったと思います。
帰化人は故郷よりも良い国づくりを目指したと思います。

朝鮮や唐からの渡来人たちは都市づくりや技術的なことでは
故郷を模倣したが、統治は力ではなく天皇を中心に祈りで治めようとしたと感じられます。
それが今日の素晴らしくもユニークな日本文化にとどまらず日本人の思想習慣を作り出しました
それを創り出したのは、日本列島の気候風土です。

アメリカもヨーロッパからの移民は本国とまったくことなる思考で国作りをしました。
このことは明治4年岩倉使節団がアメリカとヨーロッパとの違いとして感じたことです
ニュージーランドで、深さが分からないほど透明な川を見て驚きました
泳いでいる魚が宙に浮いているようでした。
黄河とは真反対です。ライン川も綺麗ではありません。

日本を訪れた外国人も日本の山の緑もそうですが
川の水の美しさには驚き感激するはずです。
昔ヒットした本「shougunn; 将軍」でも日本人の風呂好きを書いていました。
中国からの留学生たちが、今挙げた本を読んでくれるといいなと思います。

=====

西山 和宏

=====

◎6月3日大石

ぼくもいつになったら『額田女王』



に戻れるか？半分は残っています。その前に『姫神』を読むかどうかは『迷宮の月』次第ですかね。
『中国スケッチ 龍門石窟』動画を作る前にこの本を読んでいたら動画構成とダイアリー書き加えがあった
かも…と思うところです。

どうしても木場さんにも薦めたいですネ。あの海音寺潮五郎の『聖徳太子と蘇我入鹿』の時も早かったで
すから。

ぼくも今日は「迷宮の月」則天武后～龍門石窟あたりまで読んでみようかと思っています。

6月3日

「姫神」、予想とは異なった幕切れでした



阿部龍太郎は男女のハッピーエンドは好きではないようです
しかし「迷宮の月」のラストでは予想外なことが起こります。

「額田女王」を少し読んで、読みかけの「大化の改新」海音寺潮五郎が気になり
最初から読み返しに入りましたが、読了はしそうにもありません。

「迷宮の月」は予定よりも早く読了するでしょう。

◎隈元様へ

あなたの奥さまが中国に造詣が深いと



下記のようなメールが大石さんからありましたので
あなたの奥さまに「迷宮の月：阿部龍太郎著」をお贈りします。
あなたも読んでください。面白いですよ！

6月12日から6月14日の間に到着予定

大石さん

木庭さんにも贈りますので住所をお知らせください。

=====

西山 和宏

=====

◎おはようございます。



お元気にお過ごしのことと存じます
さて、大石さんと下記のようなメールのやりとりをしております
つきましては、あなたにも「迷宮の月」をお送りしたいと思っております。
大石さんから知らせて戴きました住所の確認をお願いします。

=====

西山 和宏

=====

◎先日も 紫陽花を送りましたが、同じに咲いていた



この花 右下の 輪になって
咲いている花 先日ののは
左上にある花でした。
右の花 こんなキレイに
咲くものかと眺めてました

が 今はもうありません !
断腸の思いで切りまして・
……ついですがあり
ムコに送りました。



本当に優しい人で 花も好き…食べ物も もっとも嫌い  なのは無い様です

こちらにメールする事は
急ぐ話しでなく 返信も要らない話しです ので
ご了承ください。私の独り言とご認識ください m(_ _)m

でも 写メール   の
右の紫陽花は見て下さい

6月6日大石ケイジの中国スケッチ⑨青海湖ダイアリーPDF

◎今回もちょっと長い日記になりました。



YouTube 動画は原板は完成していますので間もなくUPします。
グーグル検索から「大石ケイジの中国スケッチ⑨」で開けます。

クマトモコメント

◎youtube で見ました。

その前に日記を読んでいたのので解りやすかったですよ。



この西寧、青海湖、タール寺の旅も別世界の話みたいでした。

屋台の食事風景の場面の食品の豊富さは、見るからに奇っ怪な食品も含めて驚きでした。

私も中国に行って食事の度に「んー これは何だろう」と怪しむ食品があっても、後学のために出されたものは必ず手をつけたことなどを思い出しながら見ました。

しかし、ダイナミックですね。屋台も。

日記の最後のガイド料やタクシー代の駆け引きには、中国人の本質？ を見たような気がしました。
大石くんも一矢を報いてよかったです。 隈元達雄

◎早々に観てもらい

ありがとうございます。



ダイアリーA46 枚になります。

現在、9 作目で5 ページ平均にして 45 枚になります。

ちょっと変わったフォント(文字)を使っています。読みにくくないかな？

又京都ツアーやすいですね。薩摩関係の名所巡りをしませんか？

◎"大石ケイジの中国スケッチ⑨西寧・青海湖・鳥島・タール寺" を YouTube で見る

◎大石さん



ケイジの中国スケッチ 西寧、青海湖、タール寺 編 見ました。鵜島の島 鳥の数すごいですね！

海拔3,000m 寒くなかったですか？ 昼食で エビの蒸し焼き 青海湖でとれるのですか？

30匹もたべられたとか？ 美味しかったのですね？

素晴らしい経験ですね！ 楽しみました。

次回は どこでしょう？ 楽しみです。

木場 祥雄

◎本当に素晴らしい旅行ですね



快適な旅もよいが、少し不便な旅もよいものです

雄大というか膨大というか、地球は広いというか

自然も素晴らしいが、人間との触れ合いが面白い。

あなたとガイドや運転手とのやり取り、
あなたの対応は立派ですが、慣れていないとできないことです。
あなたの対応で、日本人はなめてはいけないと思ったでしょう。
2004 年当時の 100 元は結構価値があったと思います。

素晴らしい旅行記と映像で楽しませていただきました。

さて、次は.....

=====
西山 和宏
=====

◎深夜のメールありがとうございます。



以前は則天武後に悪いイメージを持っていましたが
最近では、国を発展させた功績などを評価すべきだと思っています。

中国では則天武后について、どのようなイメージを持たられているのでしょうか？
白鹿の傍に立つ女性、何か有名な話があるような気がしました。

◎大石様



素晴らしい中国の旅 配信感謝です。元気いっぱい ですね^^ 長崎 森永

◎花尾神社



とりあえず送ります。 隈元達雄
まだ他にもあるので、調べて送ります。

["https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201302070000/"](https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201302070000/)

◎西安⑩ぶらす③華山だいありー

6月13日

文章も動画も今日になってゆっくり見ました。「華山～西山」の旅。



中国人はホテルの小姐などぶっきらぼうな人もいと書いてある中、押し並べて親切な人が多いなと感じました。大石くんの人柄にもよるのでしょうか、陳さん夫妻を初めガイドなど周りに親身になって世話をしてくれる人が多くて、いい旅ですね。

お茶や料理の紹介ありがとう。特に大石くんが好きだという「満州料理」は水餃子、玉米餅、大学芋など美味しそうなものばかりですね。

噴水と洋楽、骨董屋での駆け引きなども興味深く見ました。私が中国に行った時、掛け軸屋に連れて行かれて掛け軸2本と扇など買ったのを思い出しました。

たまたま昨日、義弟の一年忌で西本願寺別院に行きました。

その時、広島からみえたというお坊さんの「経」についてのお説教があり、三蔵法師や西遊記の話がありました。

大石くんの動画の中にも三蔵法師が出てきたので、何かの引き合わせだったのかと思うことです。

隈元達雄

◎ぶっきらそうな小姐も心根の優しい人には、

自然と親切になるのでしょう。



素材が豊かではなかった時代には、
美しく飾りつけら芸術的な調理・盛り付けをしていました
10年前に訪れた（上海、馬戯場近くの）洒落たレストランには、

日本語はもちろん英語のメニューもありませんでした。

英語を話せるのはマネジャーだけで

中国人だけをメインの顧客にしていました。

=====

西山 和宏

=====

◎遣唐使についてネットで調べてみました。



日本の誰よりも世界を周った男の物語

平群広成(へぐりのひろなり)という聞き慣れない名前の彼は、遣唐使のなかでもっとも過酷な航路を進んだといえる人物です。彼は本来なら無事に帰国して終わりのはずでしたが、帰路で遭難しチャンパ(ベトナム周辺に存在した国)まで流され、そこから6年もの歳月をかけてようやく日本に帰ってきました。その旅程を史実を参考にしながらよりダイナミックに描いた本作は、さまざまな層の人から受け入れられる探究心に富んだ一冊です。本書の著者は作家ではなく本業の学者です。そのため史料に精通しており、遣唐使そのものだけでなく当時の社会の様子や、国家間の緊張したやり取りを立体的に描いています。やや学術書的な硬い印象を受けるかもしれませんが、本書から得ることのできる知識は相当なものです。広成の旅程に沿って行くと、遣唐使が名誉と同時にいかに大きな責任と覚悟を持って渡航していたかがよくわかります。あくまでも小説ですが、外交史に興味を持つ人には有用な作品となるでしょう。

遣唐使とは何か？航海とは何か？

遣唐使が実際に派遣された回数というのは、成功・失敗それぞれの回数を踏まえて考えると議論が分かれますが、本書はその回数を15回と仮定し、使節たちについて専門的に論述します。日本側の使節にも深くメスを入れ、彼らがどのような意図をもって対応したかが記されており、日本史を専門的に研究してきた人にとっては非常に有意義な一冊です。本書はこれまでに存在した遣唐使の研究を総合的に俯瞰し、そのうえで定説に疑問を投げかけ、遣唐使という視点から当時の日中外交の正体について論述します。「万葉集」や「続日本紀」の記述がそのまま現れるかなり高度な内容は、熟練者をも唸らせるでしょう。本書では特に、使節たちが実際に乗った船と、その航海について深く述べています。同じカテゴリの文献資料に閉じ困らず、建築学、天文学的にも考察する方法は、本書のテーマの幅を広げ、さらなる読みごたえを感じさせてくれるでしょう。

◎井真成とはどんな人

◎井真成(いのまさなり)、唐の衣服を学びながら高官のためのカスタム・テーラーでした



「尚衣奉御」はテーラーとして最高の位です。

日本について書かれた史書に接近を図ったことが発覚して殺され、

役目故に禁を犯したことを憐れんで、最高の位を追贈したようだ

阿部龍太郎の書いたものから推察されます。

水戸光圀が、なぜ「大日本史」の編纂を始めたのか？

光圀の「圀」は則天武后が創った文字です。

=====

西山 和宏

=====

◎阿倍仲麻呂を乗せ唐に向かった船が、一人の欠員も出すことなく日本に戻り、遣唐使史上の快挙と呼ばれたことは前回述べた。

その時仲麻呂とともに留学した若者の一人が、それから 1300 年後の 21 世紀に突如としてその名を世に広く知られることになることは、その船に乗っていた誰一人として夢にも思わなかったに違いない。

彼の中国名は**井真成**。日本名は、不明である。

2004 年 10 月、西安郊外で彼の墓誌が発見され、大きな話題を呼んだことは、我々の記憶に新しい。

その墓誌の内容は以下の通りだ。

姓は井、字（あざな）は真成。国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠くにやってきて、一生懸命努力した。学問を修め、正式な官僚として朝廷に仕え、活躍ぶりは抜きんでていた。

ところが思わぬことに、急に病気になり、開元 22 年（734 年）の 1 月に官舎で没した。36 歳。

皇帝は大変残念に思い、特別な扱いで埋葬した。

彼の体はこの地に埋葬されたが、魂は故郷に帰るにちがいない。（抜粋）

この「井真成」が誰なのかについては諸説あり、まだはっきりとわかっていない。

確かなことは、年齢と経歴からみて、阿倍仲麻呂と同じ船で入唐した留学生であったこと、そして彼と同じ年齢だったことである。

遣唐使船に乗った人間全員の名前が記録されていればその中からそれらしき人物をピックアップできるのだろうが、残念ながら乗船名簿は残っていない。となると井真成という中国名から日本名を推測するしかないのだが、これがなかなか難しい。

日本人が中国名を名乗ったケースは多々ある。古いところでは小野妹子が「蘇因高」と名乗ったと記録されている。前回取り上げた阿倍仲麻呂の中国名は「朝衡」だ。

私が小説に書いたことのある高向黒麻呂の中国名は「玄理」といった。これは「くろ＝玄（玄人さんのくろ、ですな）」と「まろ＝理」を組み合わせた、比較的わかりやすい中国名だが、「蘇因高」や「朝衡」から日本名を推測するのはほとんど不可能とっていいだろう。

中には、仲麻呂とともに日本に帰ろうとして遭難し、唐に残った藤原清河が「川清」と名乗ったというわかりやすい中国名もあるが、唐に渡った日本人のほとんどは、元の名を推測しづらい中国名を名乗っている。蘇因高も朝衡も、しっかりとした記録に残っているからこそ、小野妹子や阿倍仲麻呂のことだとわかるのである。

従って、「井真成」にしても、それがどれくらい日本名と似通っているのかわからない以上、そこから本名を推測するのは難しい。

現在言われているのは、「井」が「葛井」、あるいは「井上」という姓をあらわし、「真成」が名をあらわすという説である。もしそうであるとすれば、彼は「葛井真成（ふじいのまなり）」あるいは「井上真成（いのうえのまなり）」という名だったことになる。ただし、彼が「川清」式の単純な命名法を採用していればの話だ。

「葛井」あるいは「井上」だったとすれば、彼は渡来系の人物だったということになり、阿倍家の名を背負い、僱人（お付きの者）まで連れて遣唐使船に乗り組んだ仲麻呂とは、家格に雲泥の差があったはずだ。

しかし、先ほども述べたように、没年から逆算すると彼は仲麻呂と同年齢であり、同じ留学生という立場にあった。太学でともに学び、唐の朝廷に仕えたという二人に、交流がなかったとは考えられない。想像をたくましくするならば、彼らは若き日々をともに過ごした仲間であり、苦悩や喜びをわかちあった盟友であったとも考えられよう。彼が没したとき、皇帝の命によって特別な扱いで埋葬されたという経緯には、皇帝の側近であった仲麻呂の意志が働いた可能性もある。

井真成が 36 歳の若さで長安に没したのは、開元 22 年（734 年）正月のことで、その葬儀は 2 月 4 日に行われたと墓誌に記されている。

ところが、そのまったく同じ時期に、日本からの遣唐使が 16 年ぶりに唐にやってきていたのだ。

本来ならば、井真成は長安で彼ら遣唐使と会うことができ、せめて名残の一言なりを日本で待つ人に伝えることができただろう。

だが、運命は残酷だった。

その頃、長安近郊が飢饉にみまわれ、皇帝玄宗は東都洛陽に移っていた。井真成が病臥したとされる頃、皇帝との謁見を願う遣唐使たちは、長安ではなく洛陽に向かうため、揚州で待機していたのだ。

もしもそのとき皇帝が長安にいたなら、733年4月に難波津を発つたとされる遣唐使一行は、まっすぐに長安に向かい、年内には到着していたことだろう。井真成がいつ頃病臥したのかはわからないが、翌年正月だったという臨終には十分間に合ったはずだ。

しかし、遣唐使は揚州で足止めを余儀なくされ、井真成は彼らに会うことなく世を去った。

唐の人々も彼を哀れに思ったのだろう。盛大な葬儀をとりおこない、彼の死を悼んだ。

そのとき仲麻呂がどこでどうしていたのかはわかっていない。皇帝の側近として洛陽に赴き、そこで彼の死を知ったのかもしれない。あるいは長安に残り、友の死をみとったか。

いずれにせよ、井真成の死に、彼が衝撃を受けたことは想像に難くない。井真成の葬儀が終わった4日後の2月8日、「羽吉満」（仲麻呂の僱人羽栗吉麻呂のこととする説がある）という者が、経典を持って長安を発ち、それを日本からの遣唐使に託したと伝えられている。諸説あるが、それが羽栗吉麻呂だったとするならば、それはまさしく、井真成の死を遣唐使に知らせるためのものだったはずだ。

その時「羽吉満」が伝えた経典は、石山寺に伝わる「遺教経（ゆいぎょうきょう）」であることが、その奥書に記されている。

井真成が誰だったにせよ、彼の望郷の念、そして無念を思うと、胸がしめつけられる。

きっと、唐に屍を埋めた、あまたの「井真成」がいたに違いない。彼らの犠牲の上に、膨大な書物や思想の輸入がなされ、日本独自の文化が開花したのだ。

そして、彼の墓誌の発見は、そうした留学生や遣唐使たちがかの地に埋めた夢と希望が、彼らの強い願いがかない、1300年の時をへて掘り起されたものと考えることができはしないだろうか。

井真成の墓誌の最後には、次のように記されている。

哀茲遠方 形既埋于異土 魂庶歸于故郷

（哀しきはこれ遠方なること。体は既に異土に埋もれ、魂は故郷に帰らんことを庶（こいねが）うと。）

◎ネットで見つけた遣唐使のひとり。



若くして亡くなっていますね。

いく前はその他大勢のひとりだったのかなあ？



◎井真成（いのまさなり）、唐では阿倍仲麻呂と一緒にした

井真成は高官の服飾創りをしていました。

そのころの日本の高官は唐の衣服に憧れていました

身分によって衣服は異なります

余談ながら用便のたびに衣服は汚れ着替えることがありました

そのため、日本の大名の便所は広い物でした

磯の別邸で、便所は6畳ほどの畳式の真ん中にまたいで用が足せる

大きさに切ったのを見たことがあります。

立ち居振る舞いが容易な衣服作りは重要なことでした

井真成は唐で高官のための衣服を学びながら

唐で日本の歴史はどのように書かれているかを探る密命を
日本を出発する時に与えられました。
その歴史書に近づこうとしたことが発覚して殺されました

墓誌の文章は阿倍仲麻呂が考え、仲麻呂の友人でも会った
有名な書家王維がそれを書きました。

阿倍仲麻呂は、急死した井真成の密命を引き継ぐために
急遽、帰国を取りやめにしました。
おおよそそのようなことが「ふりさけ見れば」に書かれています。

日本が立派な国として、中国に認めて貰うためには
立派な歴史書が必要だったのです。
日本書記はそのために編纂され、その目的を達したのか
必要性がなくなった時点で編纂を中止しています。

日本は、今日でも記録をあまり大切にしません
欧米せでは、記録は重要です

So was written, so was done. と何かにありました。

=====

西山 和宏

=====

◎大石くん

遣唐使など学校で少し習っただけで浅学の私ですが、大変興味深く読ませてもらいました。ありがとう。



ちょっと長い文章だったので、飽いたら途中でやめて改めて読もうと思いつきながら読みましたが、一気に引き込まれて読了しました。

遣唐使の wikipedia など少しですが紐解いてみました。

第九次派遣者名簿に「井真成」の名前もしっかり掲載されています。

ここにもあるように「中国で発見された最初の墓誌であり、他国も含めた唐国への留学生の墓誌の唯一の発見である。現存の石刻資料の中で国号を『日本』と記述した最古の例である」とのことも書いてありました。

こうしてみるとこの遣唐使問題など含めて古代史の奥深さがわかったような気がします。

遅ればせながら残りの時間の許す限り少し勉強したくなりました。

隈元達雄

◎井真成(いのまさなり)、唐の衣服を学びながら高官のためのカスタム・テーラーでした



「尚衣奉御」はテーラーとして最高の位です。

日本について書かれた史書に接近を図ったことが発覚して殺され、
役目故に禁を犯したことを憐れんで、最高の位を追贈したようだ

阿部龍太郎の書いたものから推察されます。

水戸光圀が、なぜ「大日本史」の編纂を始めたのか？

光圀の「圀」は則天武后が創った文字です。

=====
西山 和宏
=====



大石ケイジの中国スケッチ⑩ダイアリー完成

◎楽しい珍道中の感じ楽しく読みました



値切りも良かった、ハオチーも良かった

エジプトの土産物屋は店の裏にいろいろな物を

埋めて時代仕上げにしているとオーストラリアで

訪れたエジプト移民が笑っていました。

中国は羊頭狗肉の本家元祖、同じことを行っているかも。

ネットで見えていたら寒山寺名物の石碑「寒山寺 楓橋夜泊」、新しい物が立っていた。

古いのはどうしたのでしょうか。

公園の説明板などは時代仕上げで作っていたのに

この石碑はまったく新しい。

しかし、もう 1000 年経てば、みな同じということでしょう。

ミンパイラ...



◎西安の長安寺にある『小雁塔』はツアーブックには載っていない(旅行のコースに時間の都合などで省かれる場合が多い)けどなかなかいいところです。西山くんなら兵馬俑よりこちらに行くかも。

◎6月10日

素晴らしい建物ですね



ワードに移して全体を見ました

見上げて、登るのは大変ですね

今でも昇降は歩きでしょうか？

最上階で宴会をするときには

手動のリフトがあったでしょうが

トイレは甕に入れて流したのでしょうか？

則天武后は恐ろしい人でしたが

身内や一族のためには優しい人でした

=====
西山 和宏
=====



◎大石コメントいただいたこの本を読んで則天武后最真になりました。

6月13日大石コメント

『迷宮の月』先ほど読み終わりました。

余談ですが、表紙が固くて寝て読むのにいい方法を見つけてからペースが速まりました。もっとも第十章くらいからテンポが速くなったようで文中にはまってしまいました。

疑問だった洛陽と長安(西安)の疑問も解けました。又、小雁塔のことも終わりの方で出てきましたネ。検索していくつか読んだ中に遣唐使の中に祖父母が渡来人だった男が執節使みたいな身分で唐に渡り帰って来なかった人がいたようで

すね。安部龍太郎氏は面白い本を書きますね。中国🇨🇳では則天武后はドラマ映画🎬によく登場します(悪女がウケる)が、『迷宮の月』はむすめの太平公主(李令月)ですね。

テレビドラマ化したら誰ですかネ?二人の男と8人の子持ちにしてはまだ初々しさを残している?いい女優が浮かびません。

首から下はBSフジ8時のプライムニュースのキャスターが浮かびます。そのうち写真を撮ってお見せします。

前半部分でも太平公主のボディ描写に胸の露出表現が度々あるので?!?!?とは思いつつ読んでいましたのでやはりの感はありました。

皇帝から天皇への国書が白紙印のみ…は、あり得ないとはいえ小説上は上出来です。

森くんか、南郷くんにお貸ししたいと思います。

◎この小説は楽しみながら勉強にもなり、洒落た傑作だと思います

則天武后は悪女でしょうか、それに収まりきれない、男なら英雄と評価されるでしょう。



皇帝の子が太平公主と呼ばれるそうですが、両親が皇帝とは…

中国人なら「迷宮の月」のタイトルを太平公主(李令月)のことを書いた本と思うかもしれない。

ドラマにするとしたら米倉涼子でしょうか、昔なら嵯峨美智子、もっと昔なら山田五十鈴。

あそこがまさにクライマックスということです。

栗田真人は博識にして、凛々しい大和男子であったでしょう。

皇帝から天皇への国書が白紙で印のみ…は、見事などんでん返し

小野妹子は、返書を持ち帰ったのでしょうか?

などなど、面白い話題を提供してくれました。

生きた歴史を学ぶことができました。

遣隋使、遣唐使が、重要で命がけのものとは知りませんでした。

◎6月15日

この本を読んでいちばんの宿題は…遣隋使、遣唐使の中国での行動に疎かった、と言うことでした。阿倍仲麻呂でしたか?



向こうで重用され位も上がって日本に帰れなかった。この人の物語くらいは読んでみたいと思う。後は気に入られ秘伝を譲受された空海など…位いしか浮かびません。何回も遣唐使は往復しているので然るべき固有名詞がいたら読んでみたいなあ。

そんな資料(読み物)があったら教えてください🙏

もしかして井上靖の『額田女王』後半あたりにらしき遣唐使が登場しませんかね?

当時の隋・唐(玄宗皇帝の頃)から見た朝鮮(4國)と日本(倭国)はどうみてもいたのか?も興味があります。

遣唐使についてネットで検索したら結構興味深いものを見つけました。

興味ある方にだけ転送しましょう。

◎この小説は楽しみながら勉強にもなり、洒落た傑作だと思います



則天武后は悪女でしょうか、それに収まりきれない、男なら英雄と評価されるでしょう。

皇帝の子が太平公主と呼ばれるそうですが、両親が皇帝とは…

中国人なら「迷宮の月」のタイトルを太平公主(李令月)のことを書いた本と思うかもしれない。

ドラマにするとしたら米倉涼子でしょうか、昔なら嵯峨美智子、もっと昔なら山田五十鈴。

あそこがまさにクライマックスということです。

粟田真人は博識にして、凛々しい大和男子であったでしょう。

皇帝から天皇への国書が白紙で印のみ…は、見事などんでん返し

小野妹子は、返書を持ち帰ったのでしょうか？

などなど、面白い話題を提供してくれました。

生きた歴史を学ぶことができました。

遣隋使、遣唐使が、重要で命がけのものとは知りませんでした。

◎日本書紀や古事記は持っていますが、少し読んだだけ。



ふとしたことから、「日本史の叛逆者・私説壬申の乱」井沢元彦を面白く読みました。

井沢元彦は昔少し読んで歴史をパロディ風に茶しているようで好感を持っていませんでした

ところが「私説壬申の乱」は違いました。大海人皇子の扱いが良かった。

松本清張の「壬申の乱」は半分で中断、海音寺潮五郎の「大化の改新」は3/4で一時休み

3日で読んだ「迷宮の月」は「平城京」の巻末、大家博子の解説にぜひ本書と併せて読みたいとあった。

それで入手した「迷宮の月」は初版本、面白いのにいかに読まれていないかということである。

科挙にも合格し王維とも友人になった阿倍仲麻呂は、玄宗皇帝、楊貴妃の頃、玄宗の皇子儀王の教育係になり

王族の集まりにも出席できるようになりました。阿倍仲麻呂は中国の史書に日本のどのように書かれているのか

探る用間（スパイ）の密命を帯びて帰国のチャンスを辞退、楊貴妃の姉楊玉鈴と結婚して玄宗の義兄という関係になる

そのために最愛の妻子と離別します、ここらあたりは本当に泣けるところです。

その感想をハガキに書いて阿部龍太郎に送りました。



阿部龍太郎の女性の描き方は海音寺潮五郎にはできない見事さがあります。

「天の原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」と百人一首にある歌からとった

「ふりさけ見れば」のタイトルで、目下日本経済新聞に連載中。300回を越えていますので

早ければ年内に単行本になるでしょう。

「ふりさけ見れば」の副読本を添付します。

「迷宮の月」の次に「姫神（文庫本）」、これには遣隋使小野妹子が登場します

以前、「則天武后：外山軍治」を読みましたが、もっと知りたくて探して

津本陽の「則天武后：上下」を673円送料込みで、本日到着。

昨年読んで凄いと感じたのは、松本清張の最後の作品「神々の乱心：上下」

「琉球王国；高良倉吉」は、随分と線を引きながら読みました。

冊封がどのようなものか一面を知りました。

印象的だったのは、曆は中国のものを使い文字はひらがなを使っていたことです。

中国が栄えていた時代が書かれており、習近平は、あの頃に戻りたいと

思っているのではないかと推測しています。その点はプーチンも同じです。

◎15日早々に、ありがとうございました。



今、パソコンで『中国スケッチ⑪』を製作中なのでメールは明日ゆっくり読ませてもらいます。
明日は珍しく午前中、午後、夕方と現役時代にも勝るスケジュール(商談でないただの面談)があります。
そしてまた2,3日何にも予定がありません。こんな毎日です。

添付『ふりさけ見れば』スマホで一度目(寝る前に)目を通しました。明日又読みます。

津本陽の『則天武后』興味があります。面白かったら教えてください。

◎示現流にも造詣が深い津本陽の「則天武后」面白いです



なくならない内に確保した方がよいです。

=====

西山 和宏



先ほど Amazon に注文しました。

『則天武后・津本陽上下』単行本(送料込み)1,000 円内でした。

◎それはよかった



これも読み始めたら止まりませんよ！

◎大石 慶二、南郷 善之助 様、および、八期会の皆様へ。



6月13日は、鹿児島市伊敷公民館にて、伊敷歴史研究会の6月定例会で、小生が主宰者の池田先生から指示されて、「敵中突破の立役者、島津豊久」という首題で、2時間の会員発表【ここでは3回目】を行ってきました。

八期会の歴史愛好家の大石様、南郷様なども聴取に来られるとの事でしたが、当日、都合が悪くなって、行けない旨のご連絡をいただいていた。

今回は発表内容をパワーポイントで作成してくれた方がいて、講話もスムーズに進行できました。

このコロナ禍の中でも、従来通り、毎月1回は開催されている鹿児島でも有数の歴史研究会であり、指名を頂いた後、説明資料作りに自分も緊張しながら「首題」に取り組んだことで、当日、皆さんに配布した「説明資料」も表裏使用でA4版、10枚以上となっている事で、すべてを「添付」できないので、講話の最初に、自己紹介を兼ねて、自分なりの「歴史観」を述べた事で、そのコピーを「添付」として、お送りいたします。

当日は、会員主体でしたが、小生の歴史仲間や、ご先祖の島津家久や豊久などを通じて交流のあるいちき串木野市の方々も来ておられ、会場も盛況裡に推移することができました。

このような事で、帰郷後、狂っているとはいえ「ずぶの素人」である自分に何度も「発表」の機会を与えていただき、自分としても「生き甲斐のある老生である」と認識しています。

今後とも、八期会の皆さんとも、麗しい交流が続けられるように、よろしくお願いいたします。

なお、ご意見などありましたら、電話でもください。 099-299-3542、 090-6898-4817、 本田 哲郎。

今月の巻頭文に本田様の投稿を使わせてもらいます。

大石編集長

◎本田さん



立派なことを継続なさっていらっしやると感心しております

歴史の追求、視点を変えれば新しい発見があって楽しいことでしょう。

お互いに健康で好きなことを追求しましょう。

=====

西山 和宏=====

大石ですこんにちは😊



残念ながら会に出席出来ませんでしたが、盛況裡に終えられたとのこと、本田様の熱意のたまものと思えます。体調のことを思うととても我々では太刀打ち出来るものではありません。感服！！。

添付解説書物、ありがとうございます😊ダウンロードコピーさせていただき勉強したいと思います。

遣唐使 「迷宮の月」安部 龍太郎著 読んで

◎西山さん 大石さん 隈元さん 森さん 南郷さん 本田さん



遣唐使 「迷宮の月」 安部 龍太郎著 西山さんから西山さんから 送っていただき 一気に読みました。非常に 興味深く読ませていただきました。

使節団 遣唐使の皆さん 辛苦の思いで 天皇からの命を 遂行する

特に 遣唐 執節使 栗田 真人の使節団にすら打ち明けられぬ機密のミッションを持ちながら 幾多の辛苦、遂行されていくことに 非常に興味深く 一気に 二日で 読みました。

特に、第十三章 「夜鳴き鳥」 雲上の麗人 太平公主令月との駆け引き、最高の接待を受け、 答えることができる 齢 六十四 で 受け止められる体力も 凄いと感しながら読みました。

遣唐使の皆さん たいへんな 苦労しながら 命がけで 使命を遂行しておられることが よく 分かりました。

この小説を読んで まあ 中国という所は 今も 変わらないなあ…と感じました。

もう一つ、 4号船 大位である美努連岡麻呂の墓が 生駒市南部

青山台に 「遣唐使の墓」 ということが 「生駒の歴史と文化」(平成 20 年教育員会作成)に掲載され、何べんか見学に行ったこともあり、名前が書かれていたこともより一層 興味がわいた次第です。

TBS-TBS 関口宏の 一番新しい古代史 も 2 週間前に 遣唐使の放映などあり、一層 興味を持っていたところでした。

最後に 「迷宮の月」書籍をアレンジしていただいた 西山さん

また 木場へどうやと 連絡してしていただいた 大石さんへ 重ねて 御礼申し上げます。 ありがとうございました。

木場 祥雄

◎嬉しいメールですね！

きっとそうだとは思っていましたが、やはりそうでしょう。



キャッチャーさえ良ければ、大谷翔平なみの豪速球で3球3振でノックアウトかもねん..とか 13章、それこそ「迷宮の月」でしょう。

阿部龍太郎「平城京」「姫神」そして、「則天武后」、そして、近い将来に上梓される「ふりさけ見れば」

=====
西山 和宏
=====

◎大石ケイジの中国スケッチ⑪長沙編



https://youtu.be/yL_rU_HTzCo 大石ケイジの中国スケッチ⑪長沙編の①岳麓書院

◎なにやら落ち着いたエッセイという感じで読みました



なかなかいい文章ですね！

昔、シナリオを書いていたか！

「文は人なり」とゲーテが言ったそうです。

西山 和宏

◎中国に食と商業の現代化を訪ねて その1

私は 1981 年 10 月、「中国に食と商業の現代化を訪ねて」に商業界友好訪中団の一員として参加しました。



そのときの報告記を雑誌に掲載した PDF が、パソコン引っ越しの準備作業中に見つかりました。中国人の平均月収が 50 元であった時代の旅行でした。

男性は、ほとんど人民服、女性には電髪（パーマ）が流行っていました。

トンジー（同士）と呼びかけていました。

どこへ行っても熱烈歓迎、4 階建ての工場訪問では窓に鈴なりで手を振って歓迎今は昔の物語りです。

雑誌の現物はありませんが PDF 保存したものを添付いたしますので読んでいただけたら幸いです。

西山 和宏

◎西山さん

まあ びっくりしました。西山さんが「1981年 10 月に 中国に食と商業の現代化」北京、瀋陽へ出張され、レポートを書かれている。アメリカ 流通業界の前に このような お仕事をされていたこと はじめて知りました。



さあつと



読ましていただいたのですが 私も 化合繊維の服地の売り込みで 1980年 1月に北京へ出張した経験あり、私共は 繊維品会社という政府機関との商談で 当時は北京市内 40km以内しか 行動できず上海への異動は 移動許可(ビザ?)が いるような時代でした。

万里の頂上には 会社の担当者が 同行案内してくれました。自由に行動することは 難しかったことを憶えております。(自由行動はできない時代でした。) 買い物は 当時 外貨ドルショップ 友誼商店しか 買い物はできなかったように思います。

当時の百貨店、街中の状況を書かれたものを見せて頂き、非常に懐かしい思い出 見せて頂きました。元も14円 今は 半値ぐらいになっていますか？ 買い上げたもの、や釣銭を顧客に投げ渡すといわれた彼らも 少しづつでは あるが 手渡すようになってきていると記載あり、このあたりも 店員指導教育がされてきているように書かれています。100%までは 改善されていなかったと思います。

当時の世相が よくわかったように思います。本当に よい、懐かしい レポート見せてもらいました。平均収入 月収 50円 ほとんどの人が 人民服 でしたね。(悪い言葉でいうと 灰色か黒色の服 ドブネズミ集団)

有難うございました。 木場 祥雄

◎嬉しいメールありがとうございます。



40年前と言えば、大正時代から幕末を振り返るようなものでしょう

今日は貨幣価値も大きく変化しました。

北海公園内の「仿膳」、北京ダックの「全聚徳堵鴨店」などで食事をしましたが平均月収の1ヵ月分の50円でした。

=====
西山 和宏
=====

◎西山さん

ほんとうに 貴重な 資料 八期会通信へ メールしていただき ありがとうございます。



懐かしく 興味深く 読ませていただきました。

日本の 戦後 昭和30年代といったところでしょうか？ まあ かなり 遅れていたと記憶あります。

羊肉の焼き肉屋に行った時 外人は2階へ 国内の人は 1階と 分けられていたようでした。

1990年代の後半 江蘇省南通市の工場に 勤務しておりました。市内には 未開放区といって 外国人が 行ってはならない地域が 会ったとは知らずに 自転車で 乗り入れていまして 後で 聞かせられ ゾツとしたことありました。

公安警察が ホテルなど 外国人の行動に目を光らせているので 注意しろ 壁に 耳あり目あり…と特に 女性には 注意するように…と

最近 ハニートラップの話題が 週刊誌等に掲載されていますが 現実的なことと 思っています。アメリカの大統領など政府高官にも スパイ工作 日本には 中国スパイ 5万人いるとか 国会議員の秘書 議員宿舎などの清掃人にも 入り込んでおり 秘密書類など盗まる懸念など 油断はできないなどと言われております。

話は変わりますが 別便にて雑誌から 「社会主義中国に”商人”の姿を見た！」を 送っていただいておりますが 文字は しっかりと読めませんが いわれるように 雰囲気だけは 十分に 分かります。私は 現地訪問しておりますので 分かります。

ショウウインドウ 商品棚など 思い出させてくれます。有難うございました。 木場 祥雄

◎50元ですか？僕の頃、長沙の平和堂 5 階のブラジル料理 (有名) の値段が 50 元でした。



当時の為替レートで日本円 400 円程でした。

現在円安のレートが100円で2000円になりました。ちなみに僕がいた頃は800円程でした。

手持ちの元が4000元持っていますので 8 万円あります。

時なら 3 万 5 千円ほどなので随分今行けば得ですがなかなかコロナのチェックなどがうるさくて留学生たちも帰れません。

今日、『大石ケイジの中国スケッチ⑪長沙の❶』完成したのでユーチューブ動画とダイアリー送ります。

みなさんも自分の「書置き」創りませんか？思い出しながら新たに書き加える仕事もボケ防止になります。

子孫の為に箱に入れる代わりに宇宙に飛ばす (ユーチューブ動画) 無料のサイトなのでお勧めします。

もし自分の写真を系統的に作りたかったら BGM など入れてスマホで作りそれを自分のユーチューブ動画にアップするだけですから簡単です。やってみたいなあと思う方がいたらお電話受付ます。

◎為替レートの恐ろしさというものがあります。



1980 年代半ば米国を旅行中にプラザ合意があり、

1 日ごとの円高でもっと買い物をしなければと喜んだことがあります。

私は T C が 300 ドル残っています。

「書置き」非常に面白いと思います

30 年前 50 年前などほんのこの間という感じですが変化は大きい。

=====

西山 和宏

=====

◎大石さん西山さん

為替レート お互いに 長い人生 いいこともありそうですね。ドル 150円まで いくのでは



ないかという コメンテーターも出てきています。

為替 お金持ちになったつもりで 楽しんでください。

アメリカ では 1980年半ば 85年 プラザ合意 240円台から 120円台へ 日本に帰ってから

70~80円台 これで輸出関連は 壊滅的な打撃を受けました。

木場 祥雄

◎誠にささやかな楽しみ



日本は金利を上げれば、国債の金利情報で財政は破綻します

それをどうごまかすか？

かと言って、手持ちの米国国債を売却はできません。

橋本龍太郎が冗談めかしの苦しただけで陰悪なムードになりました。

政府および日銀の無策・怠慢の結果です。

遣唐使の消滅させたのは菅原道真 西山和宏



6月17日遣唐使が命がけになったのは白村江の戦いに敗れ、朝鮮半島の沿岸すら航行できなくなったから

遣唐使を中止させたのは、遣唐大使に任命された菅原道真であった。

遣唐使の消滅

寛平6年(894年)、唐国温州長官・朱褒の求めに応じる形で、宇多天皇主導で56年ぶりに遣唐使計画が立てられた。8月21日、遣唐大使に菅原道真が任命された。しかし二十日後、道真によって遣唐使派遣の再検討を求める「請令諸公卿議定遣唐使進止状」が提出された。道真は、この年5月に唐人によって伝えられた、在唐留学僧中権の書状を基として遣唐使派遣の是非を問うた。奏状の概要は以下のとおりである。

1. 中権の伝えてくることによれば、唐では内乱が続いており、唐の衰えは甚だしく、既に日本と唐の交流は停止している。
2. 過去の記録の伝えることによれば、遣唐使の多くは遭難したり盗賊に遭うなどしていたが、唐に渡ってからは危険が及んだ例はない。しかし、唐が衰えている現状では唐に渡ってからも危うい。
3. 中権の情報を公卿・諸学者は、よく検討し、派遣の可否を決めて欲しい。

遣唐使の航路

遣唐使船は、大阪住吉の住吉大社で海上安全の祈願を行い、海の神の「住吉大神」を船の舳先に祀り、住吉津(大阪市住吉区)から出発し、住吉の細江(現・細江川 通称・細井川)から大阪湾に出、難波津(大阪市中心部)に立ち寄り、瀬戸内海を経て、那大津(福岡県福岡市博多区)に至り大海を渡る最後の準備をし出帆。その後は、以下のルートを取ったと推定されている。



1. 北路

- 北九州(対馬を経由する場合もある)より朝鮮半島西海岸沿いを経て、遼東半島南海岸から山東半島の登州へ至るルート。
- 630年から665年までの航路だったが、朝鮮半島情勢の変化により使用しなくなった。

2. 南路

- 五島列島から東シナ海を横断するルート。日本近海で対馬海流を横断して西進する。
- 702年から838年までの航路。

3. 南島路

- 薩摩の坊津(鹿児島県南さつま市)より出帆し、南西諸島経由して東シナ海を横断するルート。
- 杉山宏の検討により、存在が証明できないことが判明している。気象条件により南路から外れた場合にやむを得ずとった航路と考えられ、南路を取って漂流した結果に過ぎず採用の事実はないとする説もある。

663年の白村江の戦いで日本は朝鮮半島での足場が無くなり、676年の唐・新羅戦争で新羅が半島から唐軍を追い出して統一を成したため唐と新羅の関係が悪化し、日本は北路での遣唐使派遣が出来なくなり、新たな航

路の開拓が必要になった。なお、665年の遣唐使は、白村江の戦いの後に唐から日本に来た使節が、唐に帰る際の送唐客使である。839年の帰路は、山東半島南海岸から黄海を横断して朝鮮半島南海岸を経て北九州に至るルートがとられたようである。

遣唐使船はジャンク船に似た構造で網代帆を用い、後代には麻製の補助の布帆を使用していた史料もあり、櫓漕ぎを併用していた。網代帆は開閉が簡単で横風や前風などの変風に即時対応しやすく優れた帆走性を持っている。船体は、耐波性はあるものの、気象条件などにより無事往来出来る可能性は8割程度と低いものであった。4隻編成で航行され、1隻に100人、後期には150人程度が乗船した。

後期の遣唐使船の多くが風雨に見舞われ、中には遭難する船もある命懸けの航海であった。この原因に佐伯有清は採用された新羅船形式は中型船までは優秀だが、遣唐使船は大型化のための接合で、風や波の打撃も大きく舳と艦が外れやすくなったとし、第1期(舒明から天智朝)に120人、第2期(文武から淳仁朝)に140から150人が、第3期(光仁から宇多朝)から160から170人と大人数化し乗員の積載物資も激増して遭難が多発し始めたと指摘する。東野治之は遣唐使の外交的条件を挙げ、遣唐使船はそれなりに高度な航海技術をもっていたとする。しかし、遣唐使は朝貢使という性格上、気象条件の悪い6月から7月ごろに日本を出航(元日朝賀に出席するには12月までに唐の都へ入京する必要がある)し、気象条件の良くない季節に帰国せざるを得なかった。そのため、渡海中の水没、遭難が頻発したと推定している。海事史学者の石井謙治は、前期の沿岸航法である北路とは異なり、後期の南路は当時の未熟な航海技術で五島列島から直接東シナ海を突っ切るため、遭難が頻繁した原因とする。

=====

西山 和宏

=====



西山さん

改めて 遣唐使のこと、全般について 勉強しました。 今回の「迷宮の月」書籍 遣唐使 粟田真人 使節団 航路など についても

よくわかりました。 遣唐使—派遣者一覧—わかりやすく解説 Webllio 辞書 アクセスしました。

必要箇所 プリントアウトして 保存しておきます。

木場 祥雄

2022年6月17日(金) 22:32 Kazu Nishiyama <mfikazu@tkg.att.ne.jp>:



大石ケイジの中国スケッチ⑪長沙編

◎なにやら落ち着いたエッセイという感じで読みました

なかなかいい文章ですね！

昔、シナリオを書いていたか！

「文は人なり」とゲーテが言ったそうです。

=====

西山 和宏

=====



◎長沙市の人口1000万人には驚きました。

鹿児島市との姉妹都市なので、中国といえどもせいぜい100万人くらいの中都市だと思っていましたが、桁違いの大都市ですね。

しかも2400年前からの古都だとか。(wikipedia)

大学も多く、工業都市でもあるとか、驚くことばかりです。

大石先生もこの日は、可愛い生徒たちとの名所訪問で楽しそう。自分が映される場面では照れくさそう。18年前といえは64歳。それにしても若い。

先生おごりの「湖南料理」は辛そうですね。

私も大いに楽しみました。ありがとう。

隈元達雄

◎ありがとうございます。

来週 12 回目は『鳳凰古城』です。

竹下さんもぼくのよく年に行っているようです。生徒と👍 乞うご期待。

LINE 八期より………

6月16日 浜崎

アンネ-フランクが生まれたのは、1929年6月12日、生きていれば93才。アンネの日記は、13才から。日記は、44年8月1日で終わる。密告により、収容所に送られた。人間の本性は、やっぱり善なのだ。の記述が切ない。そして、戦火は、今も絶えない。が、彼女のような人間が、この世界を照らしてくれる。--



6月18日 浜崎発

6月18日

栗の実は、秋の季語だが、その花は、今が盛り。入梅のころに、栗の花が落ちる。栗花落と書いて、つゆり、と読む



そうだ。難読人名のひとつ。でも、人気アニメ「鬼滅の刃」に栗花落カナヲという女性剣士が登場し、認知度は、若い世代に高まっているらしい。梅雨のない北海道を除いて、列島は、本格的な雨の季節を迎えた。梅雨の水を飲んで旨味を増すハモやイサキ。イワシもいい。カツオは、豊漁。これからの一献、楽しみ。目に若葉、山ホトギス、初鯉。

6月19日 浜崎発

「ホトギス自由自在に聞く里は、酒屋へ三里、豆腐屋へ二里」江戸後期の狂歌師、頭光「つむりの光る」の作だ。



花鳥風月を楽しめる風流な土地は、酒屋も豆腐屋も遠くて不便だなあ、というわけである。とりわけ酒は、切らしたとなると、打つ手がない。近場に店あってこそだったろう。

6月23日 浜崎発



今朝お墓参りしたら、ウグイスの鳴き声を聞き、心華やぎ好きな六月の俳句を、思い出しました。新旧2俳句。六月は、酒を注ぐや、香を撒くや、春にまさりて心ときめく。与謝野晶子 思いきり、愛されたくて、駆けてゆく六月、サンダルあじさいの花。俵万智。--

◎大石さん

関西地方も梅雨入り 鬱陶しい日が 続いております。



新聞記事 二通り 後の方が 見やすいです。

西山さんより 遣唐使について メール入りました。ほんとに いろいろな 引き出し？から

情報 提供いただき まだまだ 学ぶことが 多いように感じます。

これらを 学ぶには まず 健康で なければ 気力がわいてきません。

健康維持について 記載あり 気になります。お互いに 健康留意して 過ごしましょう！

木場 祥

◎メールありがとうございます。

私は、成人してから小説はあまり読まないようにしていましたが。



読むなら海音寺潮五郎、司馬遼太郎、中公新書などの幕末・明治維新のもの
毎月の文藝春秋でしたがでしたが、たまたま井沢元彦の「日本史の叛逆者」を
読んだことで古代史を読む羽目になりました。

遣隋使・遣唐使を含めて古代史は面白いと思います。

昨日あたりから思っていることは、現在の中国やソ連、特に中国では
現在、絶対権力者の近辺で、則天武後の時代に展開された激烈な出世競争
高官たちの生きるための権謀術数が行われているであろうということです。

権力は必ず腐敗し、絶対権力者は滅亡する。

これが、今日の絶対権力者が辿る運命でしょう。

古人曰く、歴史は繰り返す。

=====

西山 和宏

=====

◎西山さん



言われるように 中国の絶対権力者は滅亡する と思いますが 今秋の 共産党大会で 三期目の実現と
なるとこしばらくは・・・ということになり 日本も大変な ことになりそうです。幹部連中は アメリカに子
供、娘を留学させ、お金も 送っており 習近平の娘も ハーバード大学で勉強中とか
聞いております。

大石さんから LINE での連絡の 渋谷 司氏の You Tube によると 上海のロックダウンは 上海市政府は全然 タ
ッチせず上海市 市民委員会(日本での地域自治会みたいなもの?)が指導して行ったもので 市政府は 関与し
ていない、苦情、文句など

市に持ってくるのは 筋違いと言っているらしい。もちろん、市民委員会には 共産党員も参加している、お金も出て
いると言っている。今の上海市長は 今秋の党大会で 幹部?具体的な役職不明 になることも噂されていると
か・・・

という話でしたが 先般の 習近平は 3期目 難しく 首相の李克強がなるとか・・・との情報であったが、この話は
デマであると日本の社会学者(中国問題の第一人者)である遠藤 譽女史は言うておられる。全く、分からない?
混沌とした情報戦といった様相。

マネーモンスター中華帝国の崩壊 チャイナ・バブル崩壊はすでに始まっている！言われています。

おごる者は 久しからず といきたいです。

木場 祥雄

◎上海のロックダウンが変な風に行われているというのを聞いて

上海から江沢民を思い出し、あまり関係がよくなかった



江沢民と習近平、それぞれの一派が熾烈な闘いをしているのではないのでしょうか？
と思ったりして....

明の十三陵を訪れたとき、今もなお三国志は継続中という印象を持ちました。

◎来週には津本陽氏の『則天武后上下』届きます。政局はしばらく、世界も国内も、お預けしてあのふくよかな太平公主



のお母さん(盧舎那仏)のお話しても読むのが楽しみです。

西山さんご贔屓の安部龍太郎『平城京』も注文しようかと思いましたが読み終えてから買うことにします。

それはそうと一昨日か？ 関口宏の最も新しい古代面白かったというより復習になりました。

あの時代を右でのコメンテーター？が

「日本の青春時代」言い得て妙です。藤原不比等は他と比べようもない超学長??

◎まさに、国家建設の「日本の青春時代」、平城京建設は、そのシンボルでした。



「家にあればけに盛る筈(け)に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る」と詠われたあのころ、
旅の貴人に宿を貸した主は、その子種を求めて妻女を褥に侍らせたとか..

◎昨日、大石くんが添付してくれた新聞記事「義久、秀吉への謀反画策？」がありました。

興国寺跡墓地に行った時の資料に関連のことがあったことをブログに書いていました。



永野和枝さんも一緒に行っていた頃です。興国寺跡墓地に行ったのは永野さん、森くん、私の3人だったと思
いま
す。

同じ新聞記事を読んだ知り合いの横田さんから私のブログにコメントがあったので、私の知る範囲で返信をしました。
皆さんにも参考までに送ります。

隈元達雄

◎横田さん

南日本新聞も次々に歴史の面白い記事を掲載してくれるので目が離せませんね。

昨日の「許儀後」の絡む明の秀吉討伐の話は、次の二つのことから知って半信半疑でしたが、新聞で松尾館長や増田先生という方が研究されていて信憑性が高いとのことで驚きました。

まだ増田先生のごことは何も調べていませんが、少しでも見てみようと思っています。面白いテーマですね。

次のブログは私が「上町の史跡めぐり」にいつもの八期の仲間たちと応募して冷水町の「興国寺跡墓地」に行った時のものです。

" <https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/201806270000/> "

次の記事は「薩摩島津家最強の真実」の中で桐野作人氏が「島津家の謎11」の中の一つ⑥にある「明が島津に打



診した『秀吉討伐計画』の全貌とは？」とはです。

二段に分けて写真にしましたので読みにくいでしょうが参考までに添付します。

今日は雨になりそうですが、午後から伊集院の公民館で楠声会の総会が開催されます。

今後の練習会場や演奏会の開催などが討議されるものと思われます。



康の執り成して助命された。
 このとき、許儀後は明国福建軍門の金学曾に次のように告げた。
 「秀吉は国を売りにしています。薩摩の軍兵をかき集めれば四万人にはなりません。乗れる船がないので、福建から船舶を用意してもらえたら、ともに合力して、山城（秀吉の拠点である上方）を破り、秀吉の首をとることができるとしよう」
 非現実的な話だったので、もちろん実現しなかった。
 その後、金学曾は朝鮮を救うため、慶長3年（1598）、許儀後を買収して島津義弘がいる慶尚南道泗川へ行かせた。そして告げた。
 「明国皇帝が日本がゆえなく朝鮮を蹂躙しているのに怒り、精兵1000万を動員して朝鮮を回復したのち、ただちに渡海して対馬・忠岐や九州を討伐させるつもりである。また中国南部や東南アジアの水軍を薩摩に差し向けるだろう」
 福建軍門の工作は、島津氏の反秀吉感情に訴えるとともに、許儀後や郭国安など帰化明人を利用できる条件を備えていたから実行された。これは日本侵略計画というより、許儀後・郭国安などによる和平工作だったといえるかもしれない。

◎豊臣秀吉への謀反は、義久だけではないですよ！！

本田コメント



島津家による「九州制覇」も成就寸前で、25万人とも言われる豊臣連合軍によって、根白坂の戦いで、島津家軍は、完全に敗退し、三州に帰り、薩摩川内で義久が恭順の意を示して、秀吉の「三州安堵」の処置がなされています。

ところが、島津4兄弟の中で、最後まで秀吉に反抗したことで知られるのは、3男の島津歳久(後の日置島津家始祖)であります。彼は、兄弟達に無断で、秀吉が川内に来た時の帰りに、地元の祇答院の山中で、秀吉に弓矢を放ったのですが、それは、秀吉が予め防備していたことで、不成功に終わっており、それは秀吉も知る事となっており、その後、秀吉は義久に命じて、最終てきには、島津歳久は自害させられています。【鹿児島県の龍ヶ水地区近くで】

根白坂の戦いの後、4男の島津家久(当時佐土原城主)は、佐土原に帰った直後の、豊臣側の宴会での夜、突然、腹痛を起こし、翌々日には急死しています。

この急死の原因について、今も諸説があります。

家久は4兄弟の末っ子で、実は元々側室の子であった事で、幼少の頃から、島津宗本家の一員として、戦いにあけられてた一生でしたが、「戦術の妙」【釣り野伏せ戦法】を發揮して、島津家の九州制覇の一環として、「沖田騷の戦い」【竜造寺隆信】や大分市の「戸次川の戦い」(大友宗麟、四国からの連合軍、長曾我部・仙石・十河一族などで、ことごとく圧勝しているほど、島津宗本家の武将として戦って、島津家に貢献しています。

ところが、豊臣側に敗れた後は、豊臣側の要請に応じて、ほかの兄弟たちに相談もなく、「豊臣大名になる」【つまり豊臣側に入る】ことに返事したことが、義久・義弘の激怒を買ったともみられます。

その根拠としては、最初に書いた3男の島津歳久は、最後まで秀吉に反感を持ち、刺殺まで試みている事から見て、島津4兄弟の豊臣側に対する「対応」が混乱した事、4兄弟の「意向」がバラバラになったこと、また、島津家の行く末が未定であった直後であり、義久・義弘の「苦悩」は図りしれないと判断されます。

したがって、家久の急死の原因として考えられるのは、島津家としての家久への「成敗」という見方も出てくると思われます。自分としては、ひいき目かもしれませんが、根白坂での島津家の敗戦後処理として、自分「進んで豊臣側の要請【豊臣大名になる】に応じて、上洛など行う事で、島津宗本家の将来の安泰を託すことになる」との彼らしい犠牲的精神もその時、彼は思考したのではないかと、思えるのです。

このような歴史の見方も可能であると思います。

このことについては、先日【6月13日】の伊敷歴史研究会の際、小生から自分の理解として、言及しました。



◎6月19日 本田さん

いつも丁寧な解説ありがとうございます。



今回の「義久、秀吉への謀反画策? 明と協力『朝鮮出兵に不満』」新聞記事で出てくる鹿児島国際大学元教授の増田勝機さんのことをネットで調べようと検索しましたところ、昭和20年、永吉生まれと出てきました。

ただ、肝心の「明と島津の秀吉討伐」の研究は出てきませんでした。また別なところから調べる必要がありそうです。クマモトコメント

◎隈元さん、コメント、ありがとう!!



増田氏は、当永吉地区浜田集落出身の方で、地元の島津家関連、桑波田一族関連など、昔の「吹上町郷土史」などの編纂などにも関わっておられる「郷土史家」でもあります。

◎ 沈従文の辺城 大石ケイジの中国スケッチ⑩6月20日百度によると「20 世纪中文小说 100 强」



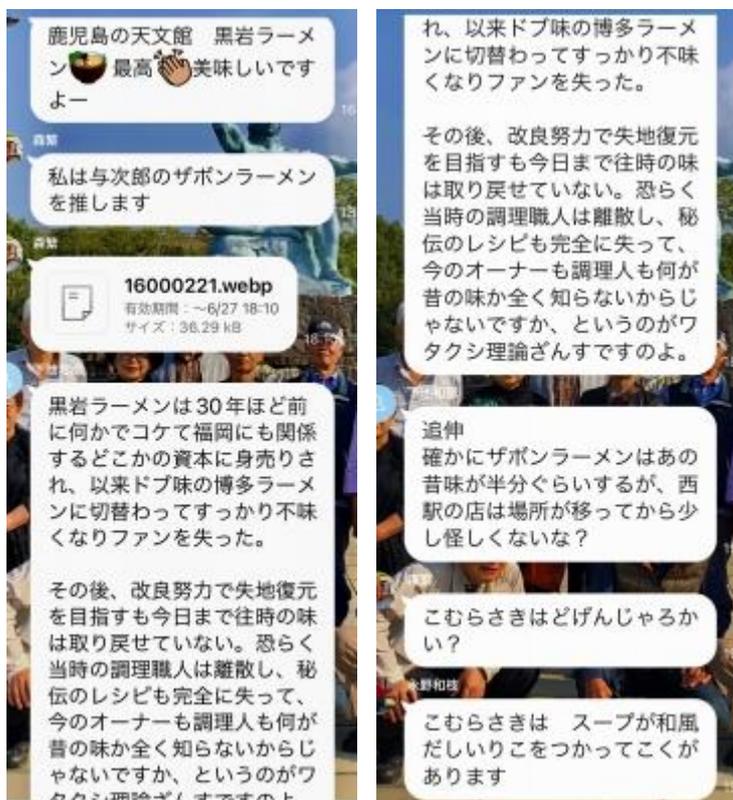
というランキングで、1位が魯迅の「呐喊」で2位がこの「辺城」なのだという。中国人民がこよなく愛する小説と原風景を彷彿させる美しい観光地のコラボ。これは最強の聖地じゃないか。なぜこの小説がそんなに人気なのか。

「辺城读后感」で検索した。「都会人は大自然に憧れ、信用し助け合う人間関係に憧れる。もっと純朴で平凡な暮

らしを求め、勤勉で平和を愛する心を呼び起こそう」という小学生や、「沈の小説は悲劇が多いが美しく愛おしい。悲しいラブストーリーだが人の心の純粋さや善良さに胸打たれた」という中学生や、「作者の湘西苗族文化に対する考え方や、苗族と漢族、中国文化と西洋文化の衝突に対する内に秘めた憂いを感じる」という高校生の作文があった。

小島久代氏が翻訳した「辺境から訪れる愛の物語」という本も読んだ。「辺境の町」も勿論よかったが、「月下小景」や「夫」の訳の雰囲気は痺れるほど素晴らしく、作者の世界観にどっぷり浸ることができた。さらには巻末の解説がとても詳しく、沈従文がどんな人か理解するのにとても役に立った。――

LINE 八期の『ラーメン談義』です。登場者は下池氏…堀田さん…森くん…大石…永野さん。以上



松尾千歳氏コメント(今朝の新聞に対して)

ガン治療薬の副作用かな? 声がかすれてしまいました!

喉に違和感があるわけではないのですけどね!

さて、今回は閑話休題です!

今日の南日本新聞に朝鮮出兵時、島津と中国が手を組んで、秀吉を討つ、出兵を失敗させようとしていた可能性が高いという私の説を紹介していただきました! また徳川家康がこれに絡んでいた可能性があることも。

関ヶ原合戦前後の家康の島津に対する異常な厚遇、やむなく西軍に味方せざるを得なくなったという島津の主張を認め処分なし さらに琉球出兵を認め、事実上の加増! 家康のイミナ、将軍が使う字とされた「家」の

使用を許し島津家久と名乗らせる。御三家の当主にも使用を許さなかったのにです！
こうした優遇、この裏の繋がりがあったからかなと思っています！



◎なるほどと思います。納得です。 隈元達雄

◎私もそうですが、声のかすれは筋肉である声帯の衰えだと思います



カラオケがいいと思いますが、私はやっていません。
音読でもしようかと思いながら、これも怠っています。
キーボード動作で、指先だけは十分に動かしています。

島津と中国、島津と徳川の関係、そんな見方もあるのかと感心しています。

=====西山 和宏

◎以下…【尚古集成館館長の松尾千歳さん(目下ガン治療中)…が Facebook に投稿しているコメントのコピーです。面白
いので送ります。



木場さんからはぼくがガン?!心配して電話もらいましたけど別人です。ぼくはまだ(ときめき派)です。】

以下…鹿児島に来てからの続きです。

かつて鹿児島で歴史研究というと、西郷隆盛とか幕末維新期の研究が主でした。今も編さんが続いている『鹿児島県史料』も、幕末・維新期の「忠義公史料」、「西南戦争」から始まっているのもこのためです。本当はこれで終わるはずだったとのこと。

幕末維新の薩摩藩の活躍も、「西郷先生・大久保(大久保はよく呼び捨てでした)が偉かったからよ」で片付けられていました。その他の事は軽視。

こうした状況を危惧し、西郷研究だけではダメだと訴え続けられていたのが、原口虎雄先生(泉先生のお父様)や私の恩師の五味克夫先生・芳(かんばし)即正先生らです。先生方のご尽力で「旧記雑録」など鎌倉・室町時代の史料も刊行されるようになり、いろんな分野の研究もなされるようになりました。

私が尚古集成館に入った頃は、さすがに西郷研究だけで良いという時代ではありませんでしたが、まだその名残は残っていました。鹿児島の歴史研究の重鎮と言われるような方の中にも、西郷研究だけに没頭している方もいらっしゃいました。研究会の懇親会などで、よくそうした方々から「おまんさあは、何ごて西郷先生の研究をせんのか?」と叱られ、「集成館事業とか文化・技術の研究のようなことはせんでよか。それより西郷先生の偉業を学べ」とか言われました。

そういう声を聞き流していました。今はこういうことを言う人もいなくなりましたね。皮肉なもので、そんな私が『西郷隆盛と薩摩』(吉川弘文館)を出したりしているのですけど……

西郷研究が主という状態が長く続いたので、西郷が関係しない分野の研究は遅れています。また偏った歴史・文化の見方になってしまったのかなと思っています。西郷らをとりまく下級武士の歴史・文化が、そのまま薩摩の歴史・文化と思われてしまったような感じです。一面しか見られていない感じです。

西郷らが活躍したのは紛れもない事実なのですが、彼らが活躍できた背景、薩摩藩の状況、特殊性など、まだまだ明らかにすべきことが多々あります。

ここ数十年で、だいぶ改善されてきつつあるなど感じています。逆戻りしないようにみんなで手を携えて頑張っていかなければ



ばと思っています。◎6月21日東京・上野公園に銅像が建ち上野駅の出入り口に「西郷口」があるほどの西郷さんですが、大久保利通について、ただ偉かったとか維新三傑の一人というにとどまらず、業績についても知るべきです。

莫大な借金を処理し、幕末活動の資金まで蓄えた
調所広郷についてももっと知るべきでしょう。
調所広郷には原口虎雄の著書があります。

=====
西山 和宏

=====
◎鹿児島では松尾館長が述べておられるように「西郷中心の史観」がこれまで大手を振っていましたが、全部とは言えないまでも、大石くんが先日参加した「大久保利通」を見直す会など機運も大いに盛り上がってきています。



古市さんは、それに先駆けて「大久保利通研究」をし、大久保利通に関する文章を書いたり、遠くの集まりに参加されたりしてられました。

その動きは、私の知る限りでもだいぶ前から鹿児島でもあるのですが、そういう動きはあっても「西郷ドン」人気は相変わらずのようです。

「薩長史観」は間違いだという本もあり、「明治政府がその成立を正当化するために創り上げた歴史」でありその背景には悪いことは隠蔽する考えがあった、とあります。

他にも「司馬史観」という司馬遼太郎の描いた「日本を急速に近代化させた明治維新と新政府、その時代の日本人を賛美する姿勢」があり、それに対しても異論があるようです。
私もこういう機会に出会って、更に好奇心が湧いてきました。

隈元達雄

◎明治時代、特に初期においては都合の悪いことは抹殺し
自由な言論は封殺されました。



明治維新の功労者でお礼になったのは

板垣退助；100円札、1948年

岩倉具視；500円札、1951年

どうして、そうなったのでしょうか？

=====
西山 和宏

◎先に下巻が送って来ました。

◎いきなり 凄い話から始まりましたね
同じ書店で上下とも注文できたら



よかったですよね..

まあ、すぐ届くでしょう

津本陽は、どんなネタ本を持っていたのでしょうか

驚くばかりの内容です

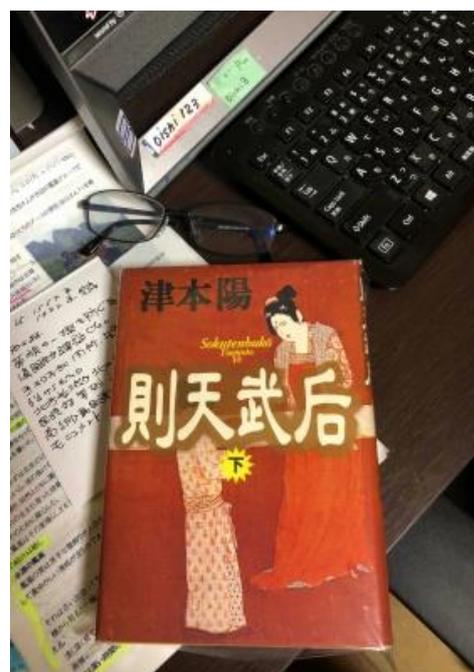
阿部龍太郎、宮城谷昌光も凄い作家ですね

先の芥川賞「ブラックボックス」読みましたが

そういえば、昔「太陽の季節」でしたよねという印象でした。

明日にも「上」が届きますように...

=====
西山 和宏



◎実は今、『中国スケッチ⑫鳳凰古城と沈從文』書き終えて動画の作成に取り掛かります。

沈從文は中国の川端康成です。ノーベル文学賞をあと半年生きていたらものにしていた中国文学者です。湖南省鳳



凰県の産んだ偉人です。

ほやほやを添付します。固いのも少し、ダイアリー化したいと思います。

則天武后と八期オンライン通信6月号の編集が待っています。

◎6月22日

鳳凰古城へのツアーは同行者にも恵まれ随分と楽しいものであったでしょう

沈從文は、惜しいことをしましたね、後一步でしたのに、歲月人を待たず



賞もまた人を待たずかな

ミャオ族の長城を見て思い出したのは、

その昔、北京の頤和園で米国人のツアーと一緒にになり

何処へ行ったかを尋ねられ、「昨日は、long castle」と答えると

「great wall ね」とオウム返しに言われた。

あれは城ではなく壁だということです。

◎人生訓 百歳人生 木場祥雄コメント



八期会の皆さん

「百歳人生」といったものが LINE で 届きました。大石さんへ転送したところ、一部 誤り指摘され、訂正したものを 皆さんに 参考まで…ということで 連絡します。よろしく

指摘箇所 「行きたい所へは行っておこう」が「言っておこう」となっていましたので訂正。また、ときめくものは残さず…は ときめかなくなる前におこなうべし…に変えたいです。いただいています。皆さんはいかがでしょう。

百歳人生

明日死んでもいいように

百まで生きてもいいように

食べたいものは食べておこう

飲みたいものは飲んでおこう

逢いたい友とおしゃべりし

行きたい所へは行っておこう

気分ゆったり身なり整った

夢中になれる趣味を持ち

おこらず笑って遊んで働き

ときめくものは残しておき

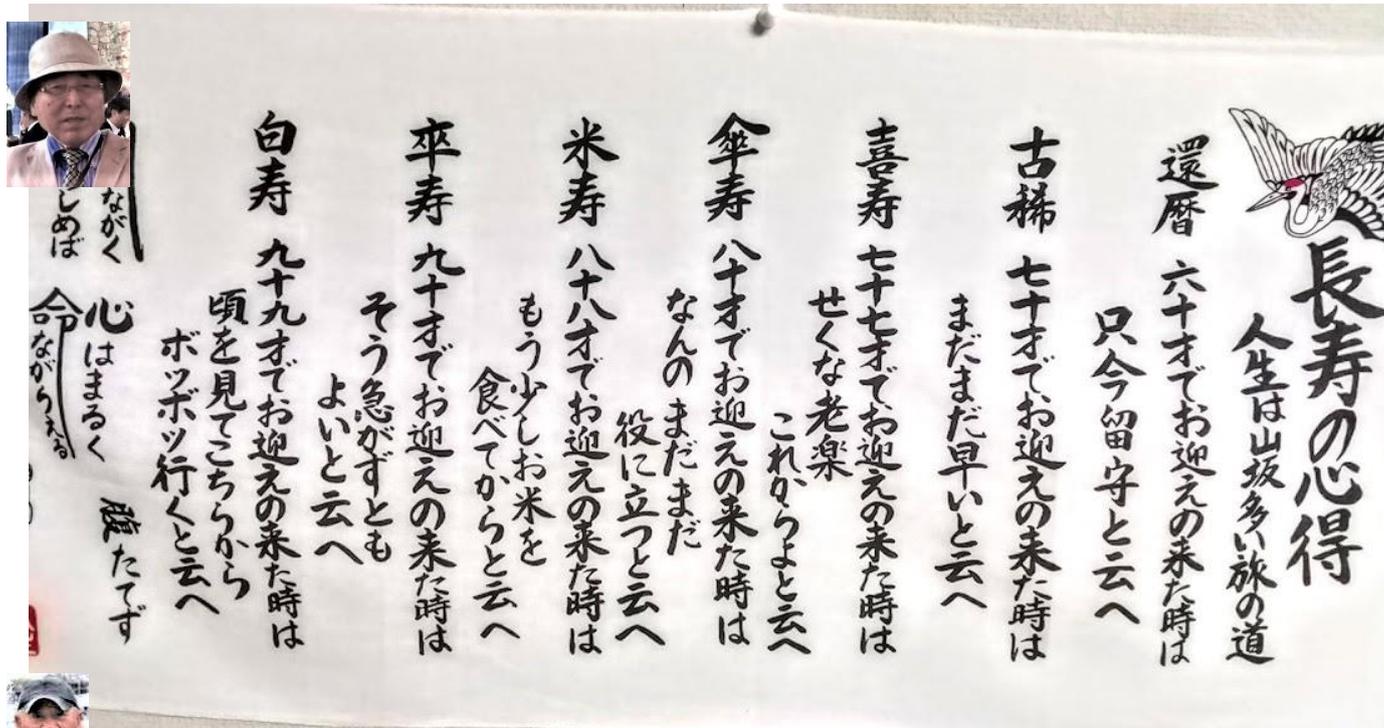
捨てるものにはありがとうを

感謝忘れず健康寿命で

明日に思いを残さぬように

参考までに 送信します。よろしく 木場 祥雄

◎こういうのもありますね。 森繁



◎百歳過ぎの人生計画にタイトルを変えてください。 西山



◎メール、いつもありがとうございます。

百歳人生、うんーとうなりました。仰せの通りです。気張らず、人生を楽しみましょう。

崎元雄厚

◎馬毛島基地計画 小学校跡地を「交換含め国と協議」
西之表市長 昨年の「取引応じる段階ではない」から変化

2022/06/21 09:00

鹿児島県西之表市の八板俊輔市長は20日の市議会6月定例会



の一般質問で、米軍機訓練移転と自衛隊基地整備が計

画される同市馬毛島の小中学校跡地(市有地約8850平方メートル)の活用について、「(国有地との)交換を含め、国との協議の場などで在り方を検討しなければいけない」と述べた。

島東岸の葉山港周辺の土地と交換する意思を計画賛成派の市議に問われた答弁。島内の学校跡地を巡っては、同省が取得意向を示した昨年11月、「(基地整備計画の)調査の途中なので取引に応じる段階ではない」と拒否していた。土地交換の可能性については、取材に「決めただけではなく、協議対象にするということ」と説明した。



一般質問は20～22日の3日間で、12人が登壇する。このうち、11人が基地整備計画を取り上げる予定。

=====西山 和宏=====

◎西之表市長の八板市長は、元々は馬毛島の訓練場には反対ということで当選したのですが、最近の動きをみる



とその姿勢に動揺が見られるように私は思います。

ご本人の最終的な考えはわかりませんが、いつも「最終的な結論は、いろいろなことがわかってから」と言いつつも、次々に国の言うことを聞き入れている気がします。

この調子でいくと「最終的なこと」がわかった段階で「反対」とは言い出せないでしょう。

何故なら、その段階では市長自身が許諾を与えたいろいろな施設などの建設が進行中であつたり、完成してしまっているでしょうから。

この問題が起こったときに、市長には同情すると私は言っていました、ちょっと甘かったようですね。

推察ですが恐らく、地元の某政治家などの大きな力があるのではと思っています。

隈元達雄



◎今度の参議院議員選挙が大敗をせずに終われば

向こう3年間、国政選挙はないとのこと

国の方針に異を唱える術はないことになる。

でもN党なるものが、政党として認められているのは少しばかりの驚きでした。

=====

西山 和宏

=====

◎井真成とはどんな人



梅前佐紀子の古代妄想日記

阿倍仲麻呂を乗せ唐に向かった船が、一人の欠員も出すことなく日本に戻り、遣唐使史上の快挙と呼ばれたことは前回述べた。

その時仲麻呂とともに留学した若者の一人が、それから1300年後の21世紀に突如としてその名を世に広く知られることになるうとは、その船に乗っていた誰一人として夢にも思わなかったに違いない。

彼の中国名は**井真成**。日本名は、不明である。

2004年10月、西安郊外で彼の墓誌が発見され、大きな話題を呼んだことは、我々の記憶に新しい。

その墓誌の内容は以下の通りだ。

姓は井、字(あざな)は真成。国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠くにやってきて、一生懸命努力した。学問を修め、正式な官僚として朝廷に仕え、活躍ぶりは抜きんでていた。

ところが思わぬことに、急に病気になり、開元22年(734年)の1月に官舎で没した。36歳。

皇帝は大変残念に思い、特別な扱いで埋葬した。

彼の体はこの地に埋葬されたが、魂は故郷に帰るにちがいない。(抜粋)

この「井真成」が誰なのかについては諸説あり、まだはっきりとわかっていない。

確かなことは、年齢と経歴からみて、阿倍仲麻呂と同じ船で入唐した留学生であったこと、そして彼と同じ年齢だったことである。

遣唐使船に乗った人間全員の名前が記録されていればその中からそれらしき人物をピックアップできるのだろうが、残念ながら乗船名簿は残っていない。となると井真成という中国名から日本名を推測するしかないのだが、これがなかなか難しい。

日本人が中国名を名乗ったケースは多々ある。古いところでは小野妹子が「蘇因高」と名乗ったと記録されている。前回取り上げた阿倍仲麻呂の中国名は「朝衡」だ。

私が小説に書いたことのある高向黒麻呂の中国名は「玄理」といった。これは「くろ＝玄(玄人さんのくろ、ですね)」と「まろ＝理」を組み合わせた、比較的わかりやすい中国名だが、「蘇因高」や「朝衡」から日本名を推測するのはほとんど不可能といっていいただろう。

中には、仲麻呂とともに日本に帰ろうとして遭難し、唐に残った藤原清河が「川清」と名乗ったというわかりやすい中国名もあるが、唐に渡った日本人のほとんどは、元の名を推測しづらい中国名を名乗っている。蘇因高も朝衡も、しっかりとした記録に残っているからこそ、小野妹子や阿倍仲麻呂のことだとわかるのである。

従って、「井真成」にしても、それがどれくらい日本名と似通っているのかわからない以上、そこから本名を推測するのは難しい。

現在言われているのは、「井」が「葛井」、あるいは「井上」という姓をあらわし、「真成」が名をあらわすという説である。もしそうであるとすれば、彼は「葛井真成(ふじいのまなり)」あるいは「井上真成(いのうえのまなり)」という名だったことになる。ただし、彼が「川清」式の単純な命名法を採用していればの話だ。

「葛井」あるいは「井上」だったとすれば、彼は渡来系の人物だったということになり、阿倍家の名を背負い、僱人(お付きの者)まで連れて遣唐使船に乗り組んだ仲麻呂とは、家格に雲泥の差があったはずだ。

しかし、先ほども述べたように、没年から逆算すると彼は仲麻呂と同年齢であり、同じ留学生という立場にあった。太学でともに学び、唐の朝廷に仕えたという二人に、交流がなかったとは考えられない。想像をたくましくするならば、彼らは若き日々をともに過ごした仲間であり、苦悩や喜びをわかちあった盟友であったとも考えられよう。彼が没したとき、皇帝の命によって特別な扱いで埋葬されたという経緯には、皇帝の側近であった仲麻呂の意志が働いた可能性もある。

井真成が36歳の若さで長安に没したのは、開元22年(734年)正月のことで、その葬儀は2月4日に行われたと墓誌に記されている。

ところが、そのまったく同じ時期に、日本からの遣唐使が16年ぶりに唐にやってくるのだ。

本来ならば、井真成は長安で彼ら遣唐使と会うことができ、せめて名残の一言なりを日本で待つ人に伝えることができただろう。

だが、運命は残酷だった。

その頃、長安近郊が飢饉にみまわれ、皇帝玄宗は東都洛陽に移っていた。井真成が病臥したとされる頃、皇帝との謁見を願う遣唐使たちは、長安ではなく洛陽に向かうため、揚州で待機していたのだ。

もしもそのとき皇帝が長安にいたなら、733年4月に難波津を発つたとされる遣唐使一行は、まっすぐに長安に向かい、年内には到着していたことだろう。井真成がいつ頃病臥したのかはわからないが、翌年正月だったという臨終には十分間に合ったはずだ。

しかし、遣唐使は揚州で足止めを余儀なくされ、井真成は彼らに会うことなく世を去った。

唐の人々も彼を哀れに思ったのだろう。盛大な葬儀をとりおこない、彼の死を悼んだ。

そのとき仲麻呂がどこでどうしていたのかはわかっていない。皇帝の側近として洛陽に赴き、そこで彼の死を知ったのかもしれない。あるいは長安に残り、友の死をみとったか。

いずれにせよ、井真成の死に、彼が衝撃を受けたことは想像に難くない。井真成の葬儀が終わった4日後の2月8日、「羽吉満」(仲麻呂の僱人羽栗吉麻呂のこととする説がある)という者が、経典を持って長安を発ち、それを日本からの遣唐使に託したと伝えられている。諸説あるが、それが羽栗吉麻呂だったとするならば、それはまさしく、井真成の死を遣唐使に知らせるためのものだったはずだ。

その時「羽吉満」が伝えた経典は、石山寺に伝わる「遺教経(ゆいぎょうきょう)」であることが、その奥書に記されている。

井真成が誰だったにせよ、彼の望郷の念、そして無念を思うと、胸がしめつけられる。

きっと、唐に屍を埋めた、あまたの「井真成」がいたに違いない。彼らの犠牲の上に、膨大な書物や思想の輸入がなされ、日本独自の文化が花開いたのだ。

そして、彼の墓誌の発見は、そうした留学生や遣唐使たちがかの地に埋めた夢と希望が、彼らの強い願いがかない、1300年の時をへて掘り起されたものと考えることができはしないだろうか。

井真成の墓誌の最後には、次のように記されている。 哀茲遠方 形既埋于異土 魂庶歸于故郷

(哀しきはこれ遠方なること。体は既に異土に埋もれ、魂は故郷に帰らんことを庶(こいねが)うと。)



◎ネットで見つけた遣唐使のひとり。

若くして亡くなっていますね。

いく前はその他大勢のひとりだったのかなあ？



◎井真成 (いのまさなり)、唐では阿倍仲麻呂と

一緒でした

井真成は高官の服飾創りをしていました。

そのころの日本の高官は唐の衣服に憧れていました

身分によって衣服は異なります

余談ながら用便のたびに衣服は汚れ着替えることがありました

そのため、日本の大名の便所は広い物でした

磯の別邸で、便所は6畳ほどの畳式の真ん中にまたいで用が足せる

大きさに切ってあったのを見たことがあります。

立ち居振舞いが容易な衣服作りは重要なことでした

井真成は唐で高官のための衣服を学びながら

唐で日本の歴史はどのように書かれているかを探る密命を日本を出発する時に与えられました。

その歴史書に近づこうとしたこが発覚して殺されました

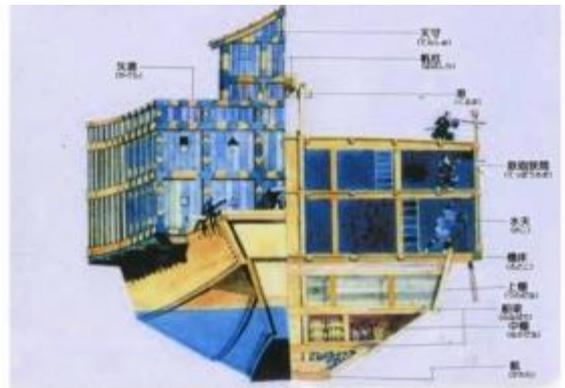
墓誌の文章は阿倍仲麻呂が考え、仲麻呂の友人でも会った有名な書家王維がそれを書きました。

阿倍仲麻呂は、急死した井真成の密命を引き継ぐために急遽、帰国を取りやめにしました。

おおよそそのようなことが「ふりさけ見れば」に書かれています。

日本が立派な国として、中国に認めて貰うためには立派な歴史書が必要だったのです。

日本書記はそのために編纂され、その目的を達したのか必要性がなくなった時点で編纂を中止しています。



これが安宅船の構造の想像図になる。構造を見ると思うのだが、安宅船の特徴は、和船の大板構造を基本に、その上に木の装甲で船体をグルリと囲う、このグルリと囲うのを「押し廻し造り」という、よく亀甲型と言い方もされている。そして、この木の装甲に狭間を幾つもつくり、そこから鉄砲（火繩銃）や弓矢で矢を射かけたりした。また、船底のかじきの部分に切石や漆喰で塗り固められたり、敷板を二重にしたり、中には防水区画を設けて浸水しにしやすい構造になっていたと思われる。その点では、軍船らしい構造といえるが、これだけの沿岸を航行する船にしては輸送スペースの大きい船で、使い方は、まさに水に浮かぶ城というイメージをもっても良い。戦術においても海路の封鎖などが主が使われ方で、また輸送力が大きいと考えると海上輸送にも使用されていたとも想像することが出来ます。



日本は、今日でも記録をあまり大切にしません
欧米せでは、記録は重要です

So was written, so was done. と何かにありました。

=====
西山 和宏
=====

◎大石くん

遣唐使など学校で少し習っただけで浅学の私ですが、大変興味深く読ませてもらいました。ありがとう。



ちょっと長い文章だったので、飽いたら途中でやめて改めて読もうと思いつきながら読みましたが、一気に引き込まれて読了しました。

遣唐使の wikipedia など少しですが紐解いてみました。

第九次派遣者名簿に「井真成」の名前もしっかり掲載されています。

ここにもあるように「中国で発見された最初の墓誌であり、他国も含めた唐国への留学生の墓誌の唯一の発見である。

現存の石刻資料の中で国号を『日本』と記述した最古の例である」とのことも書いてありました。

こうしてみるとこの遣唐使問題など含めて古代史の奥深さがわかったような気がします。

遅ればせながら残りの時間の許す限り少し勉強したくなりました。

隈元達雄

◎井真成(いのまさなり)、唐の衣服を学びながら高官のためのカスタム・テーラーでした



「尚衣奉御」はテーラーとして最高の位です。

日本について書かれた史書に接近を図ったことが発覚して殺され、役目故に禁を犯したことを憐れんで、最高の位を追贈したようだ

阿部龍太郎の書いたものから推察されます。

水戸光圀が、なぜ「大日本史」の編纂を始めたのか？

光圀の「圀」は則天武后が創った文字です。

◎大石さん こんにちは。すっかりご無沙汰しています。古市です。



「井真成」に関する記述、大変興味深く拝見しました。第8次の遣唐使500人強の一人として、かの地で学問を収めて皇帝に仕え、17年間過ごしたのですね。

日本における名家から渡ったわけですから、唐で学んだ成果を持ち帰り広めたいと、帰心矢の如しといった思いがあったことでしょう。同じ船で渡った阿倍仲麻呂や吉備真備などとの交友関係はなかったのでしょうか。彼の墓誌が発見されたことにより、「井真成」が存在していたことが判明したのですよね。

もっとも日本名でないとすれば、日本では入唐後17年間の彼の足跡は分からないままだったのでしょうか。きっと真面目、穏やかな性格で己をひけらかすようなことなど無縁の、学問一筋人物だったのではないのでしょうか。彼に対する親愛の情が湧きそう思いたいです。ありがとうございました。

◎西山さんから安部龍太郎作品『迷宮の月』遣唐使が主役...をいただいて読み終えたらあの時代の遣唐使達の
動向(活躍)を余りに知らなさすぎることに気づいてネットで調べました。



則天武后から玄宗皇帝の時代の話なのでその頃の関連小説を読んでいるところです。
今から津本陽の『則天武后』上下を読もうと思っています。(西山さんから薦められたので)
井真成についてもぼくも当時活躍した遣唐使のひとりとしてしかよくわかりませんが西山さんからコメントを
もらってますので転送してみます。

◎井真成について、6月16日、古市さんを含めて、あなた宛ての返信でメールしました。
やがて「ふりさけ見れば」が上梓されたときにいろいろなことが分かるでしょう



小説であっても、史実を曲げてまで書くことはないでしょう。

=====西山 和宏

◎今夜から『則天武后』上読み始めます。

それにしてもフォントどれくらい?文字小さくて厳しいですね。

右:イメージの武后⇒

◎本当に関心するほどの凄まじい女性ですね

どれだけの人を殺したか分からないほどです。



「日韓スポーツ」に連載であったことには少し驚き
読みながら、まったくの創作では書けない本という印象
難しい読みの登場人物が多すぎ、気にしていたら先に進ま
ない



下巻 68 頁で、則天文字について、外山軍治著「則天武后」1966 年初版のことを触れています。

このほかに気賀澤保規「則天武后」原百代「武則天」三田村泰助「宦官」などが下巻の巻末に挙げてあります。
外山軍治著「則天武后」の参考文献には「旧唐書；200 巻」「新唐書；300 巻」など他にも
多数の文献が書かれています。

他にも凄いネタ本があったのではないのでしょうか

則天武后くらいになると、痛快は悪女ですという印象には、

「迷宮の月」の太平公主が影響しています。

太平公主も結構、悪女ですよ。

話は尽きないようですので....

=====

西山 和宏

=====



◎太平公主は作家のうまさか?とてもイメージが具象化されて現れます。抱くというか?武后は悪女だけで
はイメージが湧きません。公主のお母様ですから同じフィギュアでいいですね。例えば松坂慶子?も少し悪女っ
ぽいなら...名前が浮かびません。昨日 3 ページ(序章)で終わりました。

◎これから読み進む人のために、先に読んだことをベースに言うことは控えます

太平公主に、松坂慶子いいですね。演技のうまい女優ならもっといそうな気がします



極めて女々らしい女、それが武后であり太平公主かもしれません。

◎松阪慶子の則天武后ご承認いただけましたか？



廬舎那仏からイメージを変えましょう。悪女悪女も可哀想な気がしますし。
太平公主の母親ならこんなタイプでしょう。安部様のご承認も戴けるかもしれません。

◎西山さん 皆さん



遅ればせながら「迷宮の月」を先程読了しました。妻が先に読んで私は3日ほどで読みました。一口で言えば、ほんとに面白かったです。そして単純かもわかりませんが、先日の「日本史の叛逆者・壬申の乱」も読んだのでこれからの古代史の入門編になりました。

2冊とも時代小説を史実(中国にも足を突っ込んだ古代史)をストーリー一風にした小説なので、これまで古代史に疎かった私でも次々に展開する先が楽しみでした。

本当にいい本をいただいて感謝しています。

途中メモったり、ネットで調べたりしながら読みましたので、気分が乗れば(最近なかなか乗りませんが)読後感でも書いてみようと思っています。



◎みなさん

すっかり太平公主の虜になったようです
ね

則天武后は、死して灰になるまでの凄い女性です

自分の好みで本を推奨することはめったにありませんが

400頁余のものを2~3日で一気に読んだとは
そうであろうとは思っていました。

私が得た「迷宮の月」は初版本でしたが
皆様はいかがでしたでしょうか？

「迷宮の月」を2~3日で読んだ方は、何か物足りない、

もう少しこの手のものを思うのであれば

「平城京」「姫神」いずれも阿部龍太郎著がおすすめ

さらにといふのであれば「則天武后 上下」津本陽

これで一段落でしょう。

そして、阿部龍太郎の「ふりさけ見れば」が出版される日を楽しみにしましょう

これは、泣けるほど本当に凄いですよ。

中国は今も変わらないという印象は、その通りだと思います

ライバルになりそうな者は、誅殺しないまでも早目に抹殺。

下池さん：「ふりさけ見れば」の連載をお読みでしょうか？

=====

西山 和宏

=====



◎西山さん

凄い 感覚をお持ちの方と びっくりしております。



言われてみると 太平公主 大昔の人なので 写真もなければ 想像する以外にないです。
松坂 慶子 ピッタリです。 同感です。もう一度 ゆっくり 読み直したい 気持ちに
なりました。 木場 祥雄

◎木場さん



松坂慶子の推奨者は大石慶二さんです

◎西山さん

了解です。

大石さん 長い 職業柄経験上 それなりの見識?を 持っておられるようです。

松坂 慶子さんの 年増の妖艶さ 太平公主は 誰も見たこともない 写真も もちろん 残っていない



読者の想像の域しか 出ない範囲で 各人が 選んでおられるわけですね。 私も 同感とメールした次
第でした。 木場 祥雄

◎あつという間に6月も7月に迫っています。お元気そうで何よりです。大石スケッチ

中国スケッチ②鳳凰古城&沈從文…完成送付



YouTube 動画は https://youtu.be/qjWlm_VIQYE pdf は添付を。。。最終改定版です。

◎大石様 皆様 貴重な中国の旅 配信ありがとうございます。



旅行社主導の旅とは 一味違いますね^^ 元気な八期幹事長 バンザイです。 長崎 森永

(追 今度の選挙 長崎で鹿児島出身の女性の方が立候補です。自分は良く知らない方ですが。)

◎大石さん

素晴らしい 見物されておられますね。



あまりにも タイムスリップした 古代都市 昔ながらの住居 生活 チョットしか
見れなかったですが ご婦人が 立って 茶碗 食事をしている画面が瞬間 写って
いました。これも 中国 昔は 自分は 食べているよ…と 軒先で 立って
食事をしている光景が よく見られたとか…聞きました。

ついでの話 ですが 自分の土間を掃除する時は ゴミは 全部 道に ほかすのが
習慣だったようです。

鳳凰 フェニックス と 中国観光 Web サイトでも 見ました。

大石さんが 指摘あるように 鍾乳洞も けばけばしい 天然色の光を あてていますね。夜の街風景も 同じよう
でした。

川辺の踊り 音楽も 同じような リズム 振付ですね。

木場 祥雄

◎6月24日 我々の世代は米国でもそうであったようです



3度3度、ミートを食べられる身分になりたいと言ったそうです
ビーフの摂取がポークを越えたのは、第2次大戦後もかなり後のことでした
サウスカロライナで、結婚式前夜、花嫁の両親が主催するパーティでポークソテーが供されました

花嫁の弟が母親にビーフじゃないと聞くと、予算がないからと答えました。

オーストラリアの同世代が幼かった頃、栄養補給のために親がミルクホールへ連れて行って牛乳を飲ませてくれたそうです
40数年前、ニュージーランドのモーテルの廊下に置かれた冷蔵庫には無料提供の牛乳が入っていました。

フィンランドでは、4月、白夜が終わる頃の御馳走の1つに茹でた小さなジャガイモがあります。
親は喜んで食べますが、子供はそうでもないようです。
ヘルシンキの港海岸では、あまり大きくないニシンの燻製を数匹で手づかみで食べていました。

米国駐在員が、米国の入国手続きのとき、日本から持ってきた海苔で巻いたおにぎりが、カウンターの上に転がりました
それを見た人たちは、一斉に後ろへ下がって伏せたそうです。

◎木場さんの

ご婦人が 立って 茶碗 食事をしている画面が瞬間 写って
いました。これも 中国 昔は 自分は 食べているよ…と 軒先で 立って
食事をしている光景が よく見られたとかのフレーズで、朝鮮時代の挨拶を思い出しました。
知り合いを見かけると、「オーディエ；何処へ」と呼びかけ
次は「パンモゴ；飯を食べたか？」と言っていました。
日本は、どこへ行っても米の飯とお天道様はついて回るという
お国ぶりでした、

=====
西山 和宏

=====
◎西山さん



西山さんも 気づかれたようで 何よりでした。

昔は ご飯を食べられるということが いかにも 大事か 幸せか…といった時代だったようです。

今の 息子、孫には このようなことを 説明しても 分かってもらえないようです。日本も 戦後の貧しくて 苦しかった時代を経験した人たちは 私共の 年齢が 最後のように思います。私も はっきりした記憶は だんだん 薄れてきております。私は 母子家庭(父戦死)でしたので たいへんでした。

木場 祥雄



◎鳳凰古城の旅も素晴らしかった。夜はまた同じところとは思えない風景が見れましたね。

大石くんも書いていたように、その風景をどういう風に表現したらいいのだろう。

2004年まで残された建物や川での洗濯や観光客向けの楽器に合わせた踊りなど2022年の現在も大
国中国のことだからそのままなのだろうと思いつつ見えていました。

川沿いの民家とおぼしき集合住宅？ もそのまま残っているのでしょうか。

観光客に構わず洗濯するところなど、中国らしいというのだろうか。

貸衣装で記念撮影？ かな。どこの国でも流行りのようですね。

隈元達雄

◎6月25日



中国のドラマ「則天武后」を少し観ることができます。

[The Secret History Of Princess Taiping \(ព្រះនាងថាយក្រីង\) 01 - YouTube](#)

◎西山さん

則天武后 中国ドラマ よく 見つけられたですね。



カンボジアの映画 ですか？ 今、想像しているドラマのキャストは もっと 年配のキャストを想像していました。若い時の映画と思います。

書籍で 読んで 自分なりに 人物像は 想像しておきたいと思います。

いずれにしても 見つけ出していただいたということに 感謝します。

木場 祥雄

◎26日 クマモトコメント

38分見ました。



中国語がわからないので、物語もわかったような、わからないような気持ちです。どなたか、簡単に解説していただけたら有り難いのですが。

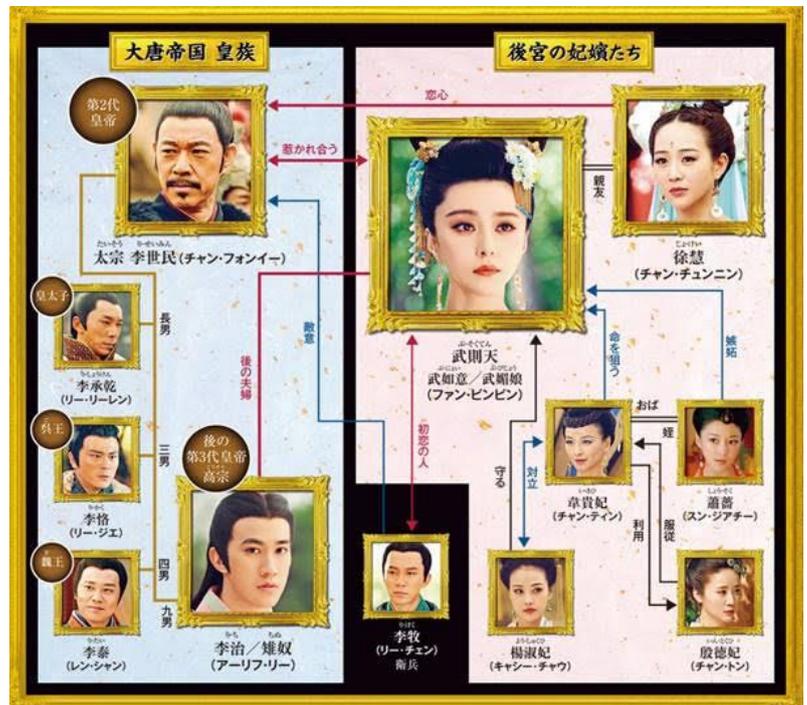
隈元達雄

◎則天武后で検索すれば、結構ありそうです。

中国発の物は観れませので、木場さん指摘のように観れるのは一部字幕から推測して外国経由かもしれません。

ストーリーは、津本陽あたりの「則天武后」にあります

しかし、映像は書かれている物ほど素晴らしいという印象を受けません
でも、映像には映像で素晴らしいところがあります。



[中国\(華流\)ドラマ【武則天】あらすじ 1 話～3 話と感想-後宮での出会い \(kankokudoramaarasuji.com\)](#)

[武媚娘传奇 2 - YouTube](#)

◎女優は美人かもしれませんが妖艶ではない。

則天武后も太平公主も妖しい美しさがあったでしょう



今日のお国柄で規制しているのでしょうか？ =====西山 和宏

=====

◎西山さん

わかりやすい資料ありがとうございます。



いずれにしても私は初心者なので、何でも勉強になります。

隈元達雄

◎私も よく分かっていません



少しずつ読み進めたいと思っています。

=====

西山 和宏

=====

◎これまでそういうことがあるとは全然知らなかったの、今朝の新聞を見て驚きました。



近くに行ったらもう少し大きな写真を写したいと思っています。

それにしても、こういう悲劇に寄り添う中村普也さんに頭が下がります。

あっぱれです。

隈元達雄

◎馬車は、五代友厚から贈られた物。

小さいとはいえ、共に亡くなった



「中村太郎」と「馬」も刻まれているとは、いいお話です。

でも非業の最後を遂げさせられたのは可哀そうです。

=====

西山 和宏

=====



◎メールありがとうございます！ご紹介の本読んで見ます

みなみちゃんのゴルフ🏌️最終日でした。

藤田くんから2時前に

結果メールで来たので

すぐに返信📧📧しましたが まだ既読にならず あの人も疲れて寝ているのだと思います！2日目 3日目 千葉県この辺 風が強くて プロも大変だったので 良くこの成績で 良かったと思っています！みんな同じ条件ですけどもね

運もあるしと藤田くん

にも 余り詰めて応援📣してもと言っていますが 本当に一生懸命な方でね🏌️ 毎週 毎週

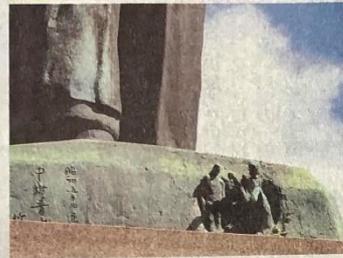
あるし龍作くんの身体

は大丈夫かと思ったり周りが 大変です！

大久保利通像、馬車夫と馬の像はどこ？



鹿児島市西千石町の高見橋横にある「大久保利通像」について「像の足元に馬車夫と馬の像がある、と観光案内のサイトで紹介されているが、見つからない」との声が、南日本新聞の「こちら373」に寄せられた。確認に行く、像の後ろ側のかかとの下あたりに小さく人と馬の像が並んでいた。



1878(明治11)年、制作した鹿児島市の彫刻家、中村晋也さん(99)に文筆に殺された馬車夫・中村太郎と馬車を引いていた馬(高さ4・3尺)の後ろ側にあるため、確かに気づきにくい。なぜ、小さな像を見えにくい場所に移ったのだろうか。制作した鹿児島市の彫刻家、中村晋也さん(99)に文筆に殺された馬車夫・中村太郎と馬車を引いていた馬(高さ4・3尺)の後ろ側にあるため、確かに気づきにくい。なぜ、小さな像を見えにくい場所に移ったのだろうか。



中村晋也さん

足元後ろに寄り添う

非業の最期とともに弔い

甲突川河畔に立つ大久保利通像(大久保利通と一緒に殺された「中村太郎」と「馬」をしのいで作られた像)鹿児島市西千石町

疑問や情報LINEで



京都の青山霊園を訪れたときにかのほろ。ひときわ大きな墓の隣に、太郎と馬の墓を見つけた。太郎は襲撃された大久保を守ろうと抵抗し絶命した。太郎と馬は、大久保の遺族の思いを受け、寄り添うように同じ場所に埋葬されたという。「どうしても太郎と馬も弔ってあげたかった。大久保家の素晴らしい心意気に感銘を受けた」と中村さん。制作依頼は大久保像のみだつたが、逸話から大久保と太郎の絆を感じ取り、正面足元に、高さ20センチほどの像を刻ませた。西郷とともに、日本の近代化に尽力した大久保。鹿児島市の未来を見据えるように立つ像と、足元で目立たないように寄り添う太郎と馬の小さな像には、中村さんが抱いた尊敬の意と、明治期の歴史の一幕が刻まれている。(出水 柊)

こちらミナミ #373 あなたの声から

を加えた。大久保像制作は没後100年に合わせて進められ、完成は1979年9月。大久保は同郷の盟友・西郷隆盛を西南戦争で倒した「仇敵」だとする人がおり、自宅には「憎い顔に彫れたのか」という声が届いたことも。門前に夜警を付けるな、中村さんは制作にまい進し、完成させた。除幕式前には像のそばにも夜警が立つたという。

7月4日夜8時～

テレビ東京 鶴田さん

悪人だそうです！

テレビ東京は 見れ無いのですかね？

龍作くんは 元気になっているような返信が

今朝ありました(よ)

お互いに年だから身体に気をつけて また逢おうだって(よ) いつの事やらで(す)

藤田くん 3時間も読んで無いわ!あの人も

疲れるよね 国内の

女子プロだけで良い からと言いたい位です

がね 🇯🇵 世界までの

広々した方ですからね

◎遣唐使論の続き

- 「平城京」は、木場さんのために書かれたような本です



散歩・散策しながら確認できることが多いことでしょう

卓越した船長の船守船人が歴史的なプロジェクトをまとめる痛快なお話。

船人と真奈が結ばれるかどうか？

その頃、幼い安倍仲麻呂と吉備真備が、遣唐使船で唐に渡る。

木場さん、この本も3～4日で読了かもねん。

少なくとも、一連の物語りに決着がつくまで、達者でし語り合える日が訪れるといいですね。

- 木場さん、西山さん

則天武后上下しばらくかかりそうです。



我慢して読むべきか？

『迷宮の月』続編のような『平城京』を先に読むか？お二人のやりとりを見て誘惑されます。

額田女王(井上靖)もちょうど半分残っている。試験勉強状態です。古市くんではないけど遣唐使も読みたいですね。

- 西山さん大石さん



メール返信 ありがとうございます。

明日から 体調整え 読書に励みます。

私の 迷宮の月 感想文で すこし文章が 乱れていたようで 私が言いたいところが 消えていたので は…と思います。栗田 真人が 太平公主と閨を とともにするところがありました。たいへんな辛苦を経験し また、このような最上の接待を受けられる 栗田真人は 六十三歳？ にして これに答えられることも すごいなあ！ びっくりした次第です。

すごい 人物だな…と思った次第です。

頑張らしよう！

西山さんが いわれるように いつか 語り合える日があれば・・・と まったく 同感です。もうすこし 若かったらと思います。

木場 祥雄

●木場さん

真人が受けた接待ではなく、献身的なことをも求められ



アドバイスにあったように、断ることなく全うした
それによって、究極の役目を見事に成し遂げた。

やはり「迷宮の月」とは、まさにその時であったでしょう。

●大石さん

敢えて言うのなら、「額田王」は、暫く脇に置いて



えいやで、迷わず読みたい物から先に読むのがよいでしょう。
なぜなら、本は逃げない...

●皆さんがんばって「読書の夏」を迎えられて羨ましい限りです。

大石さん、西山さん、木場さんは「心頭滅却すれば火もまた涼し」の心境でしょうか。



がんばって次々に読破してください。

私は次は「積読」の中の一冊・武光誠著・「古代日本」誕生の謎～大和朝廷から統一国家へ～、で時代を
遡ってみようと思っています。

隈元達雄

●西山 vs 木場氏のインテリジェンスな Yトークはさすがです。

年輪と体験を重ねたインテリゲンチャでないとなると妙なところが分かりません。



ぼくの『中国スケッチ』も現地の『三ツ星ホテル』ならではの若い姑娘とのな閨談などは、ぼかして書いても
察しられそうなので、酒でも呑みながら、口を滑らす機会があったら『わたしの愛した太平公主たち』を…副
詞や形容詞満載で、表現してみたいものです。

●やるべきを脇にずらしつつ 読み進める 則天武后かな



大化の改新以降、日本のルネッサンスという感じ
あの頃は、どこをとっても興味津々でしょう。

=====
西山 和宏
=====

●是非、筆を滑らせてください



期待しております。



●「則天武后」は「迷宮の月」のように読み進みませんので
我慢して、読み続けるのがよいでしょう。
私は、ようやく残り 100 頁を切りました。

●大石さん・西山さん

「平城京」読み始めたら 奈良市内の場所の名前、大阪の地形、場所など すべて 知っている 馴染みの場所



おまけに 行基菩薩 帰化人 福祉事業 ため池 川など 土木事業に 貢献した人で 東大寺 仏像など...

幾多の事業にタッチされた人です。この人を 絡めての小説 一気に読みたいと思います。

行基菩薩の骨をうずめてある お寺が 生駒市有里町 竹林寺があります。

私は 2002年から 15年間 10日毎に 境内清掃を しておりました。

ホントに 西山さん「平城京」紹介していただき ありがたく思っています。

木場 祥雄

●あおによし奈良の都に住む人のために

そのような人たちのためにガイドブックのように



書かれたような本です。

地場の人にも説明できることがあるかもしれません。

また、楽しめる一大プロジェクト物語ではあります

●

「平城京」を読みながら思ったことは、図面はあったのか、誰が書いたのは、測量はどうしたのかなどでした。



「平城京」建設では計算がしっかりしているので、予算超過は、天候の影響以外には、あまりなかったと思います。

昔から大工は曲尺1本で家を建てると言われています。おそらく、宮殿や寺院もそうでしょう。

私は、それと墨壺に感心しています。直線をピシッと一発で引く爽快さ。

そこで、曲尺を調べて見たらつぎのようにありました。

まさに、万能のハイテク機器です。

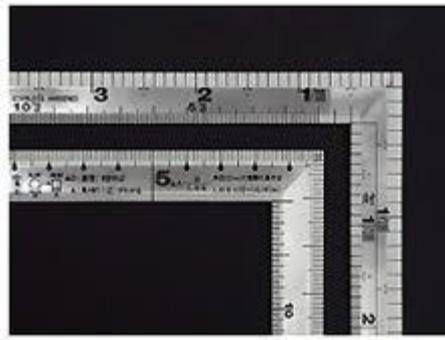
いつ頃から曲尺が使われ始めたのかははっきりしないが、中国では後漢の武氏祠石室のレリーフに伝説上の最初の皇帝・伏羲(ふっき)が曲尺をもつ様子が刻まれているから、起源はかなり古く、おそらく大陸の建築技術とともに古代の早い段階で日本にももたらされたのであろう。

なお近世以前の建築工人の間では、祖先神として崇めていた聖徳太子が曲尺を発明したとまことしやかに信じられていたのだが、これは迷信である。

さて曲尺には10の用途があると言われている。直角や寸法をはかりとり、線を記す際の定規になることは言うまでもないが、勾配をはかる、直線を分割する、和算の勾(こう)受(こ)玄(げん)の考え方を応用すれば乗除・開平・開立のための計算器としてもつかえるなど多機能な道具なのである。

なかでも特筆すべきは裏目(角目)の機能であって、表の $\sqrt{2}$ 倍の目盛りが裏面に刻まれており、直角三角形の斜辺が計算をせずに求められるようになっている。

この機能は建物の隅を墨付けする際に非常に役立つのだが、わが国の大工は裏目を利用しながら隅の屋根材の複雑な納まりを解く技を極め、規矩(きく)術と呼んで高度に体系化した。ただしその修得は困難を極めたようで、「大工と雀は軒で泣く」という言い回しはここからきている。



▲ 曲尺をもつ伝説の最初の皇帝・伏羲 (中国、後漢、武氏祠石室)

▲右 現在の曲尺 (裏面・ステンレス製)



●西山さん

いろいろと 建設 設計図面のことなど ありがとうございます。曲尺のこと 久しぶりに 見ました。今日のメール を参考に 読みすすんで行きたいと思います。またぞろ 興味が一層深く になりました。有難うございます。 木場 祥雄



●行基和尚のことについては以前から木場さんのいちばん力を入れている古代人として認識しています。資料も清掃のことも聞いていますので「より知りたい人」のひとりですので楽しみです。 大石



◎6月27日 鹿児島は例年より18日も早い梅雨明けしました。 森 繁

◎6月28日 北九州はじめ日本列島ほとんどが今日梅雨明けです。



今朝お墓参りしたら、ウグイスの鳴き声を聞き、心華やぎ好きな六月の俳句を、思い出しました。新旧2俳句。「六月は、酒を注ぐや、香を撒くや、春にまさりて 心ときめく」。与謝野晶子・・・「思いきり、愛されたくて、駆けてゆく六月、サンダルあじさいの花」。俵万智。--

熱中症に気を付けて夏を乗り越えましょう！！

